パート 2

研究環境

(裏白紙)

Q201. 研究基盤※の状況は十分だと思えますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化						
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第4分点	中央値	第4分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年
		1	2	3	4	5	6																
		0.0	0.3	0.6	1.0	1.5	2.0																
大学の自然科学研究者	0.5	13.5	21.5	23.3	15.9	19.1	6.1	32,764	4.5	0.13	2.5	4.4	6.7	5.0	4.8	4.5	-	-0.2	-0.3	-	-	-0.5	1
国等の自然科学研究者	0.1	15.5	21.1	24.6	22.0	12.9	3.7	6,393	4.1	0.29	2.4	4.2	6.0	4.9	4.3	4.1	-	-0.6	-0.2	-	-	-0.8	2
重点プログラム研究者	1.2	18.1	25.5	20.1	12.4	19.7	3.1	800	4.0	0.15	2.1	3.8	6.4	4.6	4.2	4.0	-	-0.4	-0.2	-	-	-0.6	3
人文・社会科学系研究者	0.2	15.2	18.2	28.4	21.9	11.0	5.1	2,145	4.2	0.36	2.6	4.3	6.0	5.0	4.6	4.2	-	-0.4	-0.4	-	-	-0.8	4
大学マネジメント層	0.8	10.3	34.6	37.4	12.8	4.1	0.0	243	3.3	0.00	2.4	3.5	4.6	3.5	3.4	3.3	-	-0.1	-0.1	-	-	-0.2	5
国研等マネジメント層	3.4	15.5	39.7	22.4	12.1	5.2	1.7	58	3.1	0.00	2.0	3.0	4.6	3.7	3.7	3.1	-	0.0	-0.6	-	-	-0.6	6
企業全体	9.1	15.4	37.0	21.7	14.5	2.3	0.0	4,098	2.9	0.17	2.0	3.0	4.5	3.4	3.1	2.9	-	-0.3	-0.2	-	-	-0.5	7
大企業	5.6	5.6	34.5	31.7	18.3	4.2	0.0	831	3.6	0.15	2.5	3.7	4.9	3.7	3.7	3.6	-	0.0	-0.1	-	-	-0.1	8
中小企業・大学発ベンチャー	10.0	17.9	37.6	19.2	13.5	1.8	0.0	3,267	2.8	0.21	1.9	2.9	4.4	3.3	2.9	2.8	-	-0.4	-0.1	-	-	-0.5	9
俯瞰的な視点を持つ者	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大学グループ	0.0	8.9	17.7	26.6	18.1	19.3	9.3	6,244	5.0	0.25	3.2	4.8	7.0	5.4	5.2	5.0	-	-0.2	-0.2	-	-	-0.4	11
第1グループ	1.6	11.5	24.3	22.0	14.5	17.8	8.4	8,926	4.6	0.25	2.6	4.4	6.8	5.3	4.8	4.6	-	-0.5	-0.2	-	-	-0.7	12
第2グループ	0.3	18.2	22.1	20.9	16.6	18.7	3.2	8,130	4.1	0.29	2.2	4.1	6.4	4.9	4.5	4.1	-	-0.4	-0.4	-	-	-0.8	13
第3グループ	0.0	14.4	21.0	24.5	15.2	20.5	4.4	9,463	4.4	0.26	2.5	4.3	6.7	4.5	4.6	4.4	-	0.1	-0.2	-	-	-0.1	14
第4グループ	0.3	19.5	17.0	20.4	16.4	20.2	6.2	5,050	4.4	0.30	2.2	4.4	6.8	5.1	5.0	4.4	-	-0.1	-0.6	-	-	-0.7	15
理学	0.9	10.8	27.3	19.4	16.0	19.8	5.7	14,627	4.5	0.19	2.5	4.3	6.7	5.0	4.8	4.5	-	-0.2	-0.3	-	-	-0.5	16
工学・農学	0.2	14.2	16.9	28.8	15.6	17.9	6.5	13,086	4.5	0.23	2.7	4.4	6.6	5.0	4.7	4.5	-	-0.3	-0.2	-	-	-0.5	17
保健	0.0	10.2	15.0	29.2	20.1	14.9	10.6	2,691	4.9	0.45	3.3	4.8	6.7	6.0	5.3	4.9	-	-0.7	-0.4	-	-	-1.1	18
臨床	0.5	13.8	22.1	22.8	15.5	19.5	5.7	30,073	4.4	0.14	2.5	4.3	6.7	4.8	4.5	4.4	-	-0.3	-0.1	-	-	-0.4	19
臨床以外	0.2	15.2	27.2	18.2	16.6	19.8	2.8	12,627	4.1	0.21	2.3	4.0	6.4	4.7	4.4	4.1	-	-0.3	-0.3	-	-	-0.6	20
教授	0.9	10.8	19.3	28.4	16.0	18.6	6.0	14,013	4.6	0.20	2.9	4.5	6.6	4.8	4.7	4.6	-	-0.1	-0.1	-	-	-0.2	21
准教授	0.1	16.3	14.9	22.3	14.3	19.0	13.1	6,124	4.9	0.35	2.6	4.7	7.3	5.6	5.3	4.9	-	-0.3	-0.4	-	-	-0.7	22
助教	0.4	13.2	22.2	23.5	15.7	18.8	6.1	27,649	4.5	0.15	2.5	4.4	6.7	5.0	4.7	4.5	-	-0.3	-0.2	-	-	-0.5	23
男性	0.8	15.4	17.7	22.3	16.9	21.0	6.0	5,115	4.6	0.20	2.6	4.6	6.8	5.0	5.0	4.6	-	0.0	-0.4	-	-	-0.4	24
女性	0.1	10.1	13.7	31.4	18.4	17.7	8.5	7,672	4.9	0.22	3.4	4.7	6.8	5.5	4.8	4.9	-	-0.7	0.1	-	-	-0.6	25
任期有	0.6	14.6	23.9	20.9	15.1	19.5	5.4	25,092	4.3	0.15	2.4	4.2	6.7	4.8	4.7	4.3	-	-0.1	-0.4	-	-	-0.5	26
任期無																							

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q201. (意見の変更理由)研究基盤※の状況は十分だと思いますか。

前回	2023	差		
1	2	4	2	図書館,英文Journalのタイトル数は多く,リモートアクセスもあり,研究者にとって有益な環境を提供している.研究データ基盤に関しても,現在整備を始めている.(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
2	2	3	1	ネットワーク関係はコロナをきっかけにかなり改善された.オープンデータも少しずつではあるが進んでいる.(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,女性)
3	2	3	1	データプラットフォームの整備が進んできたため(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
4	2	3	1	投稿料支援制度は一部でできたが,十分ではない.また,○大や○大でもNature Review系の雑誌が閲覧できない.出版社が商業主義に走って雑誌が増えすぎたせいもある.投稿費用が高いNature Commun(97万円)に若手が論文を出すのは相当大変.(重点プログラム研究者,准教授,主任研究員クラス,男性)
5	5	6	1	特に困ったことはない.(重点プログラム研究者,准教授,主任研究員クラス,男性)
6	2	3	1	基本的な基盤は整備されている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	3	1	コロナによるリモート対応の影響か,DX推進の影響か,以前よりも改善を感じる.(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
8	1	2	1	有益な情報がどこにあるのかの認知が低い(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
9	1	2	1	ネット環境の改善が進み,情報の利用が多少よくなっている.一方で大学予算が減り,研究が遅れている.(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	3	1	新施策が開始されている(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
11	1	1	0	地方国立大の状況が旧共産圏の国よりひどい.(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
12	2	2	0	研究雑誌を全て購入しみる事ができるわけではない.(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
13	2	2	0	最先端だけでなく基本的な実験装置も不足(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授,部局長等クラス,男性)
14	1	1	0	運営費交付金削減に伴い,閲覧できる論文誌の数が制限され,読みたいくても読めない論文がある.(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授,部局長等クラス,女性)
15	3	3	0	電子ジャーナルへアクセス可能な範囲が,英語圏の大学と比較して少ないと感じます.(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教,研究員クラス,女性)
16	2	2	0	教育カリキュラムの中で重要な割合を占める卒業論文,修士論文のための研究費が大学機関から出ないため,研究者個々で獲得する研究費しかない点を考慮すると,かなり不十分と言わざるを得ない.ある意味,学生にとっては教育機会の不平等になっている.(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授,部局長等クラス,女性)
17	1	1	0	ダウンロード可能な雑誌が制限され,情報収集が十分に行えない.(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授,部局長等クラス,男性)
18	2	2	0	数学系電子ジャーナルが不足している(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
19	1	1	0	読みたい論文へほとんどアクセスできない(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,准教授,主任研究員クラス,女性)
20	1	1	0	論文などの研究情報へのアクセスが貧弱である.(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授,主任研究員クラス,女性)
21	1	1	0	蔵書の多い図書館の利用ができない(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授,主任研究員クラス,女性)
22	1	1	0	特に論文へのアクセスが悪くなっている(国研等現場研究者・自然科学,教授,部局長等クラス,女性)
23	2	2	0	世界的に見ると日本の研究力は低下していると思う.(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
24	3	3	0	周りに比べれば悪くはないが,世界と勝負できるくらいに良いとは思えない.(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
25	2	2	0	論文が読めない(重点プログラム研究者,准教授,主任研究員クラス,女性)
26	1	1	0	さらに悪化している.(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	2	2	0	研究支援専門人材,大型研究設備の共用化等を更に進める必要がある.(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
28	1	1	0	雑誌購入のシステムは早急に改善すべき.(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	2	2	0	学術雑誌の購読料が高騰し購入雑誌を大きく制限せざるを得ない状況に置かれている(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
30	4	3	-1	日本全体ではジャーナル,スパコン,また技術補佐員などの基盤整備に費用が掛かるため徐々に弱体化している.それに関連して若手人材も育たなくなってきたり,分野の縮小化が見られる.(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
31	3	2	-1	ダウンロードできる図書は減り,インフラはどんどん老朽化するので,研究環境は悪くなる一方.(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授,部局長等クラス,男性)
32	4	3	-1	研究論文等へのアクセスが高額になり,アクセスできない論文も出てくるなど,対応の検討が必要だ.(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授,主任研究員クラス,女性)
33	3	2	-1	電子ジャーナルの購読中止や老朽化したシステムの更新が進んでいないなど悪化している.(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教,研究員クラス,男性)
34	4	3	-1	電気代の高騰で図書経費が削減されている.死守してほしい.(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授,主任研究員クラス,女性)

35	3	2	-1	大学が契約する科学雑誌の数が予算の都合で減少している(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,助教, 研究員クラス, 男性)
36	4	3	-1	年々オンライン購読可能学術雑誌が減少している(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
37	2	1	-1	かなり多くの論文が読めなくなった.論文を読むための予算が明らかに足りていない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,助教, 研究員クラス, 男性)
38	3	2	-1	オンラインジャーナル購読料の高騰によって, 閲覧可能なジャーナル数が著しく減少した。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授, 部局長等クラス, 男性)
39	5	4	-1	財政圧迫により論文データベース契約が削減されている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授, 部局長等クラス, 女性)
40	5	4	-1	図書館の予算逼迫で電子ジャーナルやデータベースの購読継続が難しくなっている(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,准教授, 主任研究員クラス, 女性)
41	6	5	-1	アクセスできる雑誌が減少した。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授, 部局長等クラス, 男性)
42	3	2	-1	所属大学の図書館では予算の関係からアクセスできない論文がいくつもある。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授, 主任研究員クラス, 女性)
43	2	1	-1	高額な学術誌の購読料の問題を交渉し改善する必要がある(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教, 研究員クラス, 男性)
44	2	1	-1	閲覧できる論文誌が年々減少している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授, 部局長等クラス, 男性)
45	4	3	-1	大学の運営費が切迫しているので仕方ないが,国際論文誌にアクセスできる範囲が狭まった.これって,国立大学は文科省が一括管理するとかできないものだろうか。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
46	3	2	-1	大学からアクセスできるジャーナル数が減ったため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授, 主任研究員クラス, 女性)
47	3	2	-1	何かと使いづらいシステムである。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教, 研究員クラス, 男性)
48	3	2	-1	雑誌が十分に購入されず私費で充当している(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教, 研究員クラス, 女性)
49	3	2	-1	円安等から,学内で閲覧できる雑誌の数を減らすという話が出ており,不便を感じている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教, 研究員クラス, 女性)
50	3	2	-1	ジャーナル契約費用の高騰に伴い,契約を削減する動きがあるため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授, 部局長等クラス, 女性)
51	3	2	-1	論文閲覧価格の高騰により,閲覧できる論文の数が減ってきている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
52	2	1	-1	博物館との連携必須の分野であるが,昨今は国立博物館の運営が厳しく,信頼できる標本受け入れ先が壊滅寸前である。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授, 部局長等クラス, 女性)
53	2	1	-1	大学図書館の開館時間は短くなり,論文へのアクセスはPPVで逐次課金が生じている.これらの環境は所属する大学依存であるが,平均的には整備されておらず,不十分。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
54	2	1	-1	商業誌の論文が全く読めない.Nature,Science,Cellすら読めない.研究に支障がでる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,助教, 研究員クラス, 男性)
55	3	2	-1	本年度から図書館長を務めているが,オンラインジャーナルの契約のための予算増に大変苦勞している。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授, 部局長等クラス, 男性)
56	2	1	-1	旅費の高騰により学会大会などへの参加の見送りが生じ,情報が得にくくなっている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授, 部局長等クラス, 女性)
57	2	1	-1	昨年度異動して,新しい環境での状況がわかってきたため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授, 部局長等クラス, 女性)
58	4	3	-1	閲覧できる雑誌が少なくなっているため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授, 主任研究員クラス, 女性)
59	2	1	-1	経費削減により,大学図書館の契約論文数が年々減っており,論文を書くために必要な参考文献などの情報収集が非常に困難になってきている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教, 研究員クラス, 男性)
60	2	1	-1	公的データベースに大量のエラーがあることを我々が発見し,これから公開予定であるため1ポイント下げた。(国研等現場研究者・自然科学,教授, 部局長等クラス, 男性)
61	2	1	-1	論文等の研究情報へのアクセスなどは価格高騰で状況が悪化するばかりである。(国研等現場研究者・自然科学,教授, 部局長等クラス, 男性)
62	2	1	-1	文献の利用等,フェアユースの拡充が進むことを望む。(国研等現場研究者・自然科学,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
63	2	1	-1	所属機関では2020年に情報セキュリティインシデントがあった.その後のセキュリティ強化時に現場研究者の活動を阻害するような形態のプラットフォームが構築され,情報データの提供と活用の両面において研究基盤は明確に悪化した.その後3年が経過するが,再三の要望にもかかわらず「文科省の了承が得られない」との理由をもって利用者目線での改善を講じる努力が実質的に放棄され続けている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授, 主任研究員クラス, 女性)
64	2	1	-1	費用的な観点から,論文誌へのアクセス権が維持できなくなっている。(重点プログラム研究者,教授, 部局長等クラス, 男性)
65	2	1	-1	ジャーナルへのアクセス範囲が狭まっている(円安のため)(重点プログラム研究者,教授, 部局長等クラス, 男性)
66	2	1	-1	独立行政法人化されてから,オンラインジャーナル購読費用の大学負担が大きく,購読継続の取捨選択が必要になり,読みたくても読めない雑誌媒体が年々増加しているように思う。(重点プログラム研究者,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
67	2	1	-1	価格高騰のため大学図書館はジャーナルとの契約を縮小し,論文へのアクセスが難しくなっている。(重点プログラム研究者,准教授, 主任研究員クラス, 男性)

68	2	1	-1	大学経由でアクセスできる論文数が減っている(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
69	2	1	-1	オンラインジャーナル購読費が益々上昇し、アクセスが出来なくなった学術誌が増えた。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
70	3	2	-1	西洋関係の研究は、急激な円安のあおりを受けています。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
71	2	1	-1	運営費の縮小により学術誌の定期購入に支障が出ている。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
72	3	2	-1	資金削減で、図書館が購入するオンライン雑誌などが限られすぎている。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
73	5	4	-1	研究費の削減により大学間の格差が開いており、図書・雑誌の利用などの面で他大学に出向かないといけないが増えてきているため。(人文・社会科学系研究者,助教、研究員クラス,男性)
74	3	2	-1	ジャーナル経費の増大,OAへの対応など,限られた経営資源で研究基盤を維持することが困難となりつつある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
75	3	2	-1	電子ジャーナルの維持に多額の費用がかかる状況になってきた。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
76	4	3	-1	ジャーナルの購読料が値上がりして大学として購読するジャーナルの数が減ってきているので。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
77	4	3	-1	論文誌のオープンアクセス契約を国家レベルで実施してほしい(現状は大学単位)。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
78	4	3	-1	国際学術誌の高騰により,気軽に異分野にも興味を持って論文を眺めてみるような機会は失われてしまった。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
79	2	1	-1	論文誌が高額になり,さらに円安,運営費交付金の削減の三重苦で購入が難しくなっている。共同利用データのアーカイブ費用の捻出も難しくなっている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
80	4	3	-1	人文・社会科学もDX化が進んでおりデジタルインフラ研究基盤のさらなる強化が必要と思われる。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
81	3	2	-1	電気代等の高騰,外国雑誌購読料の高騰(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
82	3	2	-1	外国雑誌やオンライン購読の費用の値上げが続いており,情報の入手の維持が困難となってきている。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
83	3	2	-1	量子分野の研究などで,世界的に基礎研究への方向性が主流になる中,日本の状況は少し遅れているように見える。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
84	3	2	-1	大学自体の研究アクティビティの相対的低下。大学定員充足にため中国など他国研究者による情報拡散。研究者が資金集めのため企業受ける研究に走りがち(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
85	3	2	-1	AIの活用に関する研究の敷居が高い。大学の教員レベルでも取り組めていないように思える。プラットフォームも少なく,仕方なく海外のを利用している状況。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
86	2	1	-1	研究情報へのアクセスがなくなった(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授、主任研究員クラス,女性)
87	3	1	-2	組織改組によって受け入れも含めて,研究活動が著しく低下している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
88	3	1	-2	Nature系列の重要雑誌が読めない,モデル植物情報プラットフォームへの回数制限があるなど,十分とは言えない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,助教、研究員クラス,女性)
89	4	2	-2	購読可能な雑誌がある程度限定されている(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
90	5	3	-2	為替や大学の資金の問題から大学で購読している雑誌数が年々減少している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,助教、研究員クラス,女性)
91	3	1	-2	アクセスできない雑誌が無視できない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
92	4	2	-2	電子ジャーナル等のタイトルは,使用頻度のみで削られている状況。多様な学問の発展を妨げる状況に進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
93	3	1	-2	資金難で多くの論文が読めなくなりました。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
94	4	2	-2	図書館が工事に入り利用できない。専門分野の蔵書が減る予定である。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
95	4	2	-2	昨今,出版社による論文購読料の値上げが続いたため購読契約の見直しを迫られている。購読できる論文雑誌が制限されつつあり,科学技術の発展に重大な影響を及ぼす恐れがある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
96	4	2	-2	図書館経費がますます厳しくなっており,大学で閲覧可能なジャーナルが年々減少している(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
97	4	2	-2	雑誌の購読料高騰で図書館が契約する雑誌がどんどん減っている(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
98	3	1	-2	図書館費などの削減で,研究基盤である情報収集能力が近年著しく低下している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
99	3	1	-2	図書費が予算が削減され,論文雑誌の閲覧がしづらくなりそうである。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
100	5	3	-2	新所属先では,アクセスできないジャーナルが存在する。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
101	3	1	-2	大学における基本的校費が少なすぎ,基本的な文献図書やデータベースの維持さえも困難になりつつある。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
102	4	2	-2	地方大学の研究基盤が失われている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)

103	3	1	-2	大学図書館で研究上必要なジャーナルの購読中止が相次いでいる(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
104	4	2	-2	円安が,海外への出張や,雑誌の購読などに悪い影響を与えている。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
105	5	3	-2	光熱水費高騰や大学基盤経費低下により,電子ジャーナル環境等の確保すら難しくなっている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
106	3	1	-2	オンラインジャーナルの高騰により年々研究情報へのアクセスが難しくなる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
107	5	2	-3	閲覧できる学術雑誌が削減されつつある。投稿論文が掲載されるとき料金が高額である。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
108	4	1	-3	大学図書館,論文等へのアクセスが,予算減によりかなり縮小され,研究基盤の状況は悪化している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
109	4	1	-3	研究情報へのアクセスが困難。大学院生が自由に最先端の情報にアクセスすることは不可能。包括的なサーベイも不可能。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,男性)
110	4	1	-3	図書費用の削減のため,読むことができる論文数が激減した。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
111	5	2	-3	資金不足により,読めなくなった雑誌が増えたため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
112	5	2	-3	図書費の高騰で多くの機関が疲弊している。オープンアクセスを推奨する一方,図書費の高騰に対する国の政策が見えない。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
113	4	1	-3	MATLAB等のソフトウェアが使える状況にない,所内の情報関連部署が協力的でなくなっている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
114	5	1	-4	論文雑誌のオープンアクセス化に早急に対処する必要がある。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)

31	1	1	0	ほとんど共同研究利用研究の為の装置の維持に予算を使わざる負えない。予算も全く足りない。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
32	1	1	0	今年度は電気代が高騰し、基盤経費が大幅に減少したため、教員への大学からの研究費の支給は0になった。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
33	1	1	0	電気代の高騰もあり、研究基盤経費の削減による影響が大きい。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,女性)
34	1	1	0	教員の能力を必要としない事務仕事には基盤的経費で専門の事務人材の雇用を拡充し、研究者の研究時間の捻出について本気で対策するべき。教員の研究時間が年々減少していることは、10年以上認識されているのに改善の兆しが全くない。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
35	1	1	0	こんなに低額ではまったくどうにもならない。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
36	1	1	0	科研費を取得しなければ、研究はほぼ不可能な状況にある。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
37	1	1	0	まったく足りない。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
38	2	2	0	大学独自財源として50億円を確保し、令和5年度から7年間程度(第4期中期計画終了まで)で研究支援組織強化など基盤整備に加え臨床研究支援を含めた研究力強化を図る予定であり、かつ第4期での設置団体からの研究等への支援も増加する見込みとなり、キャンパス再編整備を含め、当面はかなり活発化できる状況にあり、令和6年度以降、改善が見込まれる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
39	1	1	0	電気代高騰などに対処できないくらいひっ迫している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
40	1	1	0	研究者への基盤運営費の配分は殆どできていない。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
41	2	2	0	大学が多すぎるのか、定員が多すぎるのか、経費が拡散して注力分野への集中度が希薄(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
42	1	1	0	教員が日銭を稼がないと研究ができないのは異常(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
43	1	1	0	競争的資金に頼る制度となっしまい、産業基盤を支える技術分野に関しては全く不足で地盤沈下の懸念がある。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
44	1	1	0	電気代の高騰と人件費の上昇で更に削減されている。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
45	2	2	0	一部の大学等は裕福だが地方大学の現状は惨憺たる状況と言わざるをえない。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
46	4	4	0	最近方向に偏りが見られよくない(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
47	1	1	0	物の価格も上がる状況であり資金は減少傾向である。したがって世界と比較してますます不足している。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
48	5	4	-1	電気代を含む光熱費の高騰のため。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
49	3	2	-1	電気代の高騰で厳しい状況に。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
50	3	2	-1	物価や人件費・光熱費の高騰に対応できていない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,男性)
51	3	2	-1	研究室単位の運営費はあるが、若手教員がその一部を自身の研究に充てるのは難しいケースもあるように感じられる。その結果、科研費の他に多くの研究費への申請を余儀なくされ、現場の疲弊を招いているように思える。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,男性)
52	4	3	-1	円安の影響に加え、物価高や研究用液体ヘリウムの不足といった問題によって、これまでと同額の研究費では同等の研究を行うことが不可能な状況になっているため、本項目の評価を下げた。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
53	3	2	-1	電気代の高騰により一般運営財源が削減されています(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
54	2	1	-1	校費の減少が止まらない(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
55	3	2	-1	昨今の電気代の高騰により、大変厳しい状況が生じている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
56	3	2	-1	国から配分される予算が毎年減らされる上に、円安の影響もあって、研究費は単調減少である。十分であるわけがない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
57	3	2	-1	論文掲載費は上昇しているが、基盤的経費は減少している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
58	2	1	-1	電気代の値上げで運営費交付金がさらに減少した。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
59	4	3	-1	個人研究費が減額された。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
60	2	1	-1	内部研究費は無く、講座費も電気代の高騰により削減されている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教、研究員クラス,男性)
61	2	1	-1	部局に配分され、研究に使用できる経費は年々縮小しているうえ、昨今の物価や光熱費の上昇の影響を受け、研究室に配分される研究費は数割単位で減少している。この状況は今後も改善される見込みは立っておらず、研究の継続に悪影響を及ぼしかねない状況である。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教、研究員クラス,女性)
62	2	1	-1	電気代高騰のためという理由があるにしても、分子生物分野で、内部研究費が教員あたり年間平均数万円では、外部資金を取らない教員が1人でもいるラボでは活動に支障が出る。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教、研究員クラス,女性)
63	2	1	-1	光熱費の高騰や物価の高騰により、基盤的経費は縮小され、状況は悪化している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
64	2	1	-1	電気料金の値上げにより、基盤研究費が削減になる見通しのため(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,男性)
65	2	1	-1	毎年のように減額されている(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,男性)

66	3	2	-1	学外からの研究費がないと全くといって良いほど研究ができないという点で、とても十分とはいえない。(実際、研究をせずに(できなくて)、授業+学内委員だけに従事している教員が多い)(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
67	2	1	-1	年々少なくなっている(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
68	3	2	-1	基盤経費は年々減少しているため、1段階下げました(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
69	4	3	-1	予算は増えていないが、物価高で消耗品価格が高騰しているため(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
70	5	4	-1	経費の活用に条件がある場合があるため(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
71	2	1	-1	部屋代として(面積にもよるが十数万から数十万)を研究費から大学に支払うシステムとなった 意味が分からない(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
72	3	2	-1	物価の上昇の影響と設立から長い期間が経ち、機器の修理や施設の修理等に多くの予算が必要になっているにもかかわらず、金額が上がらないため、その分、研究にかけられる経費が少なくなっていると考えられる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
73	2	1	-1	物価高の要因で、ますます使える内容が限られている状況にある。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
74	3	2	-1	パソコンを購入する必要がある場合、自分の研究費をほぼ全額使用するため、交付金がなくなるため(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
75	3	2	-1	物価や燃油費は高騰しているが、予算が上乗せされているわけではなく、状況は相対的に悪化しているため(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
76	6	5	-1	さまざまな消耗品、機器が値段が上昇しているにも関わらず、予算は微減している。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
77	2	1	-1	交付金が年々減少しているため、交付金だけでは研究の実施が難しくなっている。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
78	3	2	-1	一部に偏っている。全体のモチベーションを上げることが課題だと思う。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
79	2	1	-1	円安などの影響で、定期購読できる学術雑誌の種類が制限されている。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
80	2	1	-1	外部資金がないと続かない。不安は続く。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
81	2	1	-1	基盤的経費が不足し、19:00以降入校禁止や年末年始の長期入校禁止が通知されている等、基本的活動が実施できていない(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
82	2	1	-1	燃料費の高騰等で益々危機的状況になっている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
83	3	2	-1	人件費増,光熱水費高騰による財政悪化のため(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
84	5	4	-1	電気・ガス料金の上昇が研究基盤経費に与える影響が出始めている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
85	2	1	-1	光熱費の高騰,ITセキュリティー充実のための経費などがこ1,2年かさんでおり内部研究費が圧迫される状況になったため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
86	3	2	-1	物価や電気料金の高騰は組織の基盤的経費を圧迫しており、研究基盤の劣化につながるものが危惧される(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
87	3	2	-1	法人化以降、運営費等が減少しており、基盤的経費の用途や研究環境の維持に支障がでている。特に近年はライフラインコスト増が影響している。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
88	2	1	-1	電気代の高騰を受けて、基盤的経費を大幅に減らざるを得なかった。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
89	2	1	-1	電気料金の高騰に対応できていない。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
90	2	1	-1	任期付き職員等が増加しており、雇用に不安があるように感じる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
91	2	1	-1	前回は研究者の給与を考慮していなかった。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
92	2	1	-1	円安等の影響もあり、むしろ状況は悪くなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
93	3	2	-1	光熱費の高騰により研究費が削減されている(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
94	3	2	-1	国立大学における「運営費交付金」(旧称?)は大変貴重で、研究者等の生活必需費に相当すると思います。これを減額していくことは、研究者等の基礎体力を奪うものです。昨今に「稼げる大学」法案により、この基盤的経費の圧縮が推進されないことを切に望みます。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
95	2	1	-1	競争的資金の獲得のために大学の内部研究費がますます削られている(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
96	2	1	-1	多くの大学で状況は悪化していると見えます(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,男性)
97	4	3	-1	職階では基盤的経費が十分でないケースもある。(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,女性)
98	3	2	-1	論文投稿時の問題:多くの学術誌で高額なAPCが課せられているが、個々の研究者レベルでの対応が難しくなっている。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)
99	5	3	-2	光熱費等の高騰により、他予算の削減が行われて厳しくなった(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
100	5	3	-2	電気代高騰のため、研究に割ける費用が相対的に減少している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,男性)
101	4	2	-2	事務処理が研究室単位で任されている形になってきており、事務補助員を雇用する財源が不足している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
102	4	2	-2	統合して、減りました。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,男性)

103	3	1	-2	物価高騰,人件費高騰などにより更に厳しい状況です。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
104	3	1	-2	基盤経費である大学への交付金の削減や,大学に入ってから配分の問題で(末端に届く金額があまりにも減った),危機的状況に陥っている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
105	3	1	-2	光熱費徴収されるため残らない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
106	4	2	-2	所属機関の方針で,予算が一律削減され,基盤研究費はもちろん,講義を支える(ひいては研究の時間確保に繋がる)TAならびにRAの予算も一律に削減されたため,学部資金(研究費)を獲得しても,研究の時間が確保できない状況に陥っており,大変,厳しい状況である。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
107	5	3	-2	研究内容の高度化に伴い不足感が出てきた(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
108	3	1	-2	円安のため,試薬,実験機器,果ては論文投稿費が高騰しており,全く資金が足りない。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教、研究員クラス,女性)
109	4	2	-2	予算が十分とは言えない。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
110	4	2	-2	光熱費が上がったことで研究者に配分される研究費が減ったため。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
111	5	3	-2	円安,物価高に対応した研究費配分となっておらず,研究経費は実質削減傾向であるため(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
112	4	2	-2	電気代高騰などにより大学財政状況が悪くなり,基盤的経費の十分な確保が難しくなっている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
113	4	2	-2	大学への補助金が減っており,研究環境はよいとは言えない(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
114	4	1	-3	卒業研究を指導する予算を科研費等から捻出する必要がある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,男性)
115	4	1	-3	海外調査の際の物価高や為替レートにより経費は不十分である(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)

Q203. (意見の変更理由)研究者が研究活動に用いることのできる競争的資金やそれ以外の公募型研究費は十分に確保できていると思いますか。

前回	2023	差	
1	1	6	5 AMEDの審査委員をしているため、しっかり提案すれば獲得できる状況にはあると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
2	2	4	2 定年が近かった教授陣が退官し,コロナも終わり,ようやく競争力のある教授が着任し始めてきた。しかし居室と実験室は未だに分離されておらず,多くのスタッフと学生の作業環境は悪いまま。(重点プログラム研究者,准教授,主任研究員クラス,男性)
3	2	3	1 確保できているところは確保できていることはわかった。ただし,やはり偏っている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教,研究員クラス,女性)
4	3	4	1 競争的資金が整理され,金銭的には十分に確保できるようになったが,人件費に使えないなど,制約が多い。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
5	2	3	1 企業との共同研究,科研費等の獲得が最近では安定してきたため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授,主任研究員クラス,男性)
6	1	2	1 継続的に獲得している研究者も増えた一方,全く取れていない研究者もおり,二分されている(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授,部局長等クラス,女性)
7	4	5	1 組織的に大型の外部資金獲得へ向けた活動ができ,ある一定の外部資金を常に確保できるようになってきているため。(国研等現場研究者・自然科学,教授,部局長等クラス,男性)
8	4	5	1 外部資金獲得へのサポートは充実しており,実績が積んでいる。(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
9	4	5	1 海洋が戦略目標に設定されるなど,昨年に比較して所属する部署においては研究費への申請チャンスが増えた(国研等現場研究者・自然科学,助教,研究員クラス,女性)
10	2	3	1 私を含めて私の身近な方々は,少ないとは言えない程度の資金を獲得している。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
11	2	3	1 過去5年間の外部資金獲得総額の推移を見ると,全体で年率7%程度の増加傾向にあるものの,国・独法系の受託研究や補助金の割合が多く,科研費や産学連携の共同研究の伸びが鈍い。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
12	3	4	1 2023年度より新たな学内公募型の研究費を増設したため(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
13	2	3	1 外部資金の獲得は徐々に増えてきている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
14	2	3	1 徐々に増えつつある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
15	1	2	1 やや大口(1千万円以上)の研究課題の採択案件も出てきている。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
16	2	3	1 十分とは言えないまでも,比較的多めの公募型研究費が得られていると思います。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
17	3	4	1 大型プロジェクトは,コンスタントに確保している。科研費の採択率も全国平均よりも高い。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
18	1	2	1 産学連携に力を入れ,産業界との共同研究費は増加してきた。科研費等の取得は依然として低調であり,改善の努力を継続している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	3	4	1 十分な研究費を取得している研究者は多くないが,通常の研究を継続する外部研究費の獲得は順調である。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
20	1	2	1 いろいろな制度改善がされていると認識。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
21	4	5	1 競争的資金の獲得額が漸増している。(国研等マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
22	2	3	1 大型研究費の獲得があり,改善している。(国研等マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
23	3	4	1 リサイクルなどのテーマに関しては国からの支援増を実感するケースがある。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)
24	2	3	1 実際に公的研究事業に関わることで,弊社の携わる分野においては研究費の確保が一定程度できている状況をと感じたため。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
25	2	3	1 文科省やJST以外の省庁による研究費や財団の研究助成の広報がよくなされてきており,徐々に申請先が増えてきているように思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
26	4	5	1 国が進める基金設置を受け,今までにない潤沢な研究資金が配分されつつある。一方で大学間格差は拡大する。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
27	1	1	0 そもそも科研費が当たっても昇格等に評価されないため,科研費に応募しない傾向にある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授,部局長等クラス,女性)
28	1	1	0 悪化している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授,部局長等クラス,女性)
29	1	1	0 科研費をとれていない人が結構いるみたいなので。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授,主任研究員クラス,男性)
30	1	1	0 科学技術の基盤になる基礎研究への配分額が少なく,十分に確保できない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授,部局長等クラス,男性)
31	6	6	0 金銭的には問題がない。(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
32	2	2	0 競争的資金等を獲得する為に研究者が研究時間を過度に削っているのではないか,研究支援専門人材による更なるオフロードが必要。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
33	2	2	0 大型の予算に偏っている感があり,もっと小・中型の研究費割合を増やすべき。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)

34	2	2	0	公募型研究費の総枠は適度に確保されていると思うが、小さく分割しすぎるのでは？(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
35	1	1	0	基礎研究,事業化などへの予算が少なすぎると思う(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
36	1	1	0	競争的資金が取れる研究者に偏りがあり,研究のすそ野が広がらない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
37	2	2	0	科学技術総予算額自体は保たれていても,配分に偏りがある印象・審査基準の見直しも必要(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
38	3	3	0	機会は十分になってきているが,そのための事務書類手続きなどに研究室が忙殺される弊害がある.また時流に沿ったテーマは競争的資金が提供されるが,従来の基盤技術分野においては競争的資金の提供は不十分.(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
39	3	3	0	公的資金が大型になると,極度の集中が起こる可能性があるため(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
40	5	5	0	競争資金は十分にあるが,それゆえに地方大学が苦しくなっている.(俯瞰的な視点を持つ者,教授・部局長等クラス,男性)
41	4	4	0	偏りがある分,十分確保できない研究者が増えているのでは(俯瞰的な視点を持つ者,教授・部局長等クラス,男性)
42	1	1	0	物の価格も上がる状況であり資金は減少傾向である.したがって世界と比較してますます不足している.(俯瞰的な視点を持つ者,教授・部局長等クラス,男性)
43	3	2	-1	運営交付金もなく,少額予算を大勢で取りに行く現状が,本当にみんなが望んだ姿でしょうか?と思うくらい,現場はしんどいと思います.(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授,主任研究員クラス,女性)
44	3	2	-1	物価や人件費・光熱費の高騰に対応できていない.(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教,研究員クラス,男性)
45	5	4	-1	前回つけたランクが高過ぎるように思ったため.(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
46	4	3	-1	研究コストが増加している.(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
47	2	1	-1	ますます外部研究費が取りにくくなっている気がする.(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授,部局長等クラス,女性)
48	5	4	-1	個人としては競争的資金の確保は十分にできていると考えるが,部局・部署全体においては,十分に確保できているとは言いがたい.(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授,主任研究員クラス,女性)
49	5	4	-1	自分は今のところ確保できています(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教,研究員クラス,男性)
50	4	3	-1	学生の授業料免除資金捻出のために教員の公募型研究費がなくなったため.(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授,主任研究員クラス,女性)
51	2	1	-1	もう少し,一見実用性のない,面白そうだけの研究に対しての(特に若手の)支援をお願いしたい.そこからのみノーベル賞は生まれる.(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授,主任研究員クラス,男性)
52	2	1	-1	研究資材や旅費が高騰しており,これまで獲得してきた研究費の金額では足りなくなっている.(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授,部局長等クラス,女性)
53	4	3	-1	研究内容の高度化に伴い不足感が出てきた(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授,主任研究員クラス,男性)
54	3	2	-1	物価高に対して研究費は変わっていないため.(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,男性)
55	2	1	-1	物価は上がっているのに,研究費は上がっていないから.(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
56	4	3	-1	個人的にはできているが,部局や部門としては十分ではないかもしれない.ただし,研究費の充足については研究者ごとに考え方が異なるため,強制は難しいと思われる.(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
57	4	3	-1	研究機器・試薬等が年々高額になっているにも関わらず,配分される研究費の額は物価で調整されない(重点プログラム研究者,助教,研究員クラス,男性)
58	4	3	-1	人材確保などの資金を考えると,消耗品費は賄えるが,まだ十分とは言えない.(重点プログラム研究者,助教,研究員クラス,男性)
59	3	2	-1	採択率,充足率共に低い.(人文・社会科学系研究者,教授,部局長等クラス,男性)
60	3	2	-1	私個人の努力の結果,今年度に関しては十分な研究費を確保できているが,部局からのサポートは特になく,研究資金の空白期間ができる不安から常に申請書を提出し続けている状況である.(人文・社会科学系研究者,准教授,主任研究員クラス,男性)
61	3	2	-1	海外をフィールドとした研究に従事しているが,科研費を申請して採択されたとしても,満額支給にはならず,そもそも予算が全く足りない.(人文・社会科学系研究者,准教授,主任研究員クラス,女性)
62	5	4	-1	まだ伸び代は十分にある.(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
63	3	2	-1	科研費などの競争的資金を十分に獲得できない研究者が多い.(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
64	3	2	-1	さらなる確保が必要(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
65	3	2	-1	ポストクを雇用できるような基盤S, Aクラス, JST-CREST, AMED-CRESTなどのような大型研究費をほとんど獲得できていないため.(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
66	3	2	-1	教員が研究にかけることのできる時間が少なくなる傾向にあり,こうした競争的資金の確保も難しくなっている.(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
67	3	2	-1	トップの大学群とそれ以下の大学群での研究費の格差は広がっているように感じる.(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
68	5	4	-1	目的型/プロジェクト型の財源はあっても,経常的(目的を定めない)研究への財源は不足(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)

69	3	2	-1	円安等の影響もあり、むしろ状況は悪くなっている。OA出版のためのAPCなども、(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
70	3	2	-1	より広く研究者の裾野を広げるようなより基盤的な経費の整備もさらに進むことを期待する。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
71	5	3	-2	本年度から異動となったが、異動先は、競争的資金の獲得には、それほど積極的ではない。ただし、それほど、大きな研究費も必要としない。(大学現場研究者・自然科学、第2G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
72	4	2	-2	円安により、機器・試薬代が高騰していて相対的にできることが限定されてきている(大学現場研究者・自然科学、第2G、理学、准教授、主任研究員クラス、男性)
73	4	2	-2	獲得できている人と出来ていない人の差、及び、獲得している人でも次はどうなるか分からない、公募の機会も少ない(大学現場研究者・自然科学、第2G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
74	4	2	-2	採択率が下がっている(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
75	3	1	-2	着任後スタートアップ経費等が出るわけでもなく、科研費等から学生指導用の設備を整える必要がある。(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、助教、研究員クラス、男性)
76	4	2	-2	年々、材料費が高騰し、電気代等の値上がりもあるにも関わらず、研究費は増えないのは問題だと思う。(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、助教、研究員クラス、女性)
77	3	1	-2	エネルギー関連経費が高騰したため、研究費が大きく削減された。また、動物実験施設の維持費も削られて研究者が持ち出しする必要に迫られている。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、男性)
78	6	4	-2	公募型研究費は、申請時と予算配分時の状況が必ずしも同じではないので、計画通りに進めることが難しい(価格上昇で、配分された金額で購入ができない機器などがある)(国研等現場研究者・自然科学、助教、研究員クラス、女性)
79	4	2	-2	論文投稿時の問題：APC問題の解決策として、競争的資金の拡充(必ずしも高額ではなく、APC特化でも)が必須ではないか。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
80	4	1	-3	競争的資金や公募型研究費に申請するための書類作成作業の時間が著しく不足している。(大学現場研究者・自然科学、第1G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
81	5	2	-3	自分の行いたい研究を自由にできる感じではない(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
82	5	1	-4	研究費が採択されれば良いが、当たり外れは大きかったり、次年度の予定が立たなかつたりと、制度の問題が多い。コンスタントに研究費が付く制度が必要である。また、「ムーンショット」等の大型の研究費の中には、開発を急ぐあまり、科学の正しさを軽視したプロジェクトがあり、問題である。科研費に関しては、良い提案が多いにもかかわらず、採択率が低く、実態と合っていないと感じる。科研費の予算をもっと拡充し、採択率もあげてほしい。(大学現場研究者・自然科学、第2G、工学、教授、部局長等クラス、女性)
83	6	2	-4	新所属先は私立・単科大学であるためか、競争的資金の採択率は低いように感じる。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、教授、部局長等クラス、女性)

Q204. (意見の変更理由)研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保、デジタルツールの活用等)は十分だと思いますか。

前回	2023	差		
1	1	5	4	本年度から異動となったが、異動先では、研究や教育の時間の確保を非常に重要視していると感じる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
2	1	4	3	研究所担当のSEさんが配置された。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,女性)
3	2	4	2	事務からの書類が読んでも意味の分からない書類だったりして時間が無駄になる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
4	2	4	2	教授会などの会議時間が短くなった。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	2	4	2	コロナ禍を経て、学内でしか入力できなかった事務項目が学外からの入力可能となり、自宅での研究時間が確保できるようになった。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
6	1	3	2	会議がオンラインが増えたため移動時間等が減少した。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
7	4	5	1	印鑑不要,ペーパーレスといった対応がかなり広まっているように感じるため評価を上げた。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
8	1	2	1	若手研究者の授業担当時間の削減および研究時間の確保のための取り組みが始まった。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,助教、研究員クラス,男性)
9	2	3	1	少しずつ改善されつつあるが,どうしても人員不足は否めない,仕方ないとあきらめている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
10	1	2	1	少しずつではあるが,申請の電子化が進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
11	1	2	1	部局内では取組もうと努力しているが,事務作業の多さは増えるばかり,通例ばかり優先され,できる方法を探ろうとする気質が感じられない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
12	1	2	1	DXを進めようとしている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
13	1	2	1	部局では,今年度から会議時間を短くしたり,会議資料のデータ管理をネットワーク上で行えるなどの工夫が始まったため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
14	1	2	1	そもそも人員に比べて,大学内外からの雑用が多すぎるのが第一の問題,考慮の余地が少ない。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
15	3	4	1	Office 365が導入された。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,女性)
16	3	4	1	まだ十分に使いやすいところまでは整備されていないが,実験記録のフォーマット化やデータベース化が推進されている。研究支援員や秘書も各研究室(グループ)に配備しやすい状況にはなっている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
17	1	2	1	徐々に,ウェブサービスなどを利用する機会が増えてきており,少しは取り組みが進んでいるように思います。それゆえ,変更しました。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
18	2	3	1	2023年度より,会計DXを取り入れ,注文等をデジタル化している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	3	4	1	学科業務の負担軽減にデジタルツールを活用するなどの取り組みに着手している(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
20	1	2	1	研究費管理ツールのデジタル化により,わずかではあるが研究者の利便性向上につながっている。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
21	5	6	1	事務手続きなどの電子化がさらに進んだと共に,事務職員の分掌もより分かりやすくなったと思います。(国研等マネジメント層,その他,男性)
22	2	3	1	コロナによるリモート対応の影響か,DX推進の影響か,以前よりも改善を感じる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
23	1	2	1	サポート人員に対する予算措置が多少改善されている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
24	3	4	1	ChatGPTをはじめとした新たなデジタルツールが普及しつつある(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
25	1	1	0	オンライン化が進むにつれ,効率が良くなると思いきや,事務業務が増えている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
26	1	1	0	なにも無い(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
27	2	2	0	教育に割く時間が多いのが現状(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
28	1	1	0	各研究室レベルではなく,もう少し汎用性が高い規模で研究支援者の確保,ローテーション等マネージする仕組みが必要(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
29	1	1	0	悪化している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
30	1	1	0	教員のマンパワーの不足により,研究以外の教育関連業務に時間がかかり,研究に時間を使えない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
31	1	1	0	事務作業や書類作成にかかる時間は多いです。現状で,教室秘書を雇って研究教育の時間を確保するようにしていますが,ぜひ,教室秘書を雇う研究費を大学からもつけていただきたいです。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
32	1	1	0	事務職員が少なく,かなりの手続きを教員自らが行う必要がある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,女性)

33	1	1	0	DX化のために導入された施策により、各種の所内手続きに必要な時間と手間が大幅に増加した。事務補佐の従事者の時間もDX化された筈の処理の差し戻しや正しい入力方法の説明に大きな時間をとられるようになり、これまでこなしていた様々な業務のための時間がむしろ削られ、その分が研究者に丸投げになりつつある。悪循環の一途をたどっている。(国研等現場研究者・自然科学, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
34	1	1	0	最近、国研だと60歳以上は権限のない、シニアフェローとか再雇用研究者などの研究者になる。しかし彼らの処遇がうまく設計されていないため、とても現場では困っている。大学の先生と違い、彼らは経験をもとに責任を取らず院政を敷きつつ自分たちは何もせず、模範となるべき姿も見せず、やりたい放題で、とても落胆する。(国研等現場研究者・自然科学, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
35	3	3	0	大学DXに関する取り組みが進んでいるが、まだツールがこなれていないため、課題は多い。(重点プログラム研究者, 教授, 部局長等クラス, 男性)
36	1	1	0	そもそも研究者の研究時間を確保するために努力しようという総意が形成できていない。目下の課題は女性率を上げることであり、教授陣はそのための会議で連日忙しくしている。たとえ資金があっても、「大学改革」が終わるまで研究時間が増えることはなさそうに感じる。研究以外の仕事を減らすか、現場の人を増やすか、方針をはっきりさせて欲しい。(重点プログラム研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
37	1	1	0	会計制度,出張書類, 勤怠管理システムが非常に煩雑で多くの時間を取られる。(重点プログラム研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
38	1	1	0	紙ベース, 手続きも煩雑, 研究費があっても使うのが大変(重点プログラム研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
39	1	1	0	部署の構成人数が少なく, 教育の負担がほとんどで研究を行う時間がない。(重点プログラム研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
40	1	1	0	馬鹿馬鹿しい形式だけの委員会は止めにしてほしい。(人文・社会科学系研究者, 教授, 部局長等クラス, 男性)
41	1	1	0	授業に注力することが要請されることから, 研究時間を削がれている。(人文・社会科学系研究者, 教授, 部局長等クラス, 女性)
42	2	2	0	事務員を大幅に減らされた結果, 教員がやる必要がない事務作業まで行っており, 研究時間の確保に大きな問題を抱えている。(人文・社会科学系研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
43	1	1	0	どこの所属でも変わらない。(人文・社会科学系研究者, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
44	3	3	0	道半ばです。(大学マネジメント層, 学長等クラス, 男性)
45	2	2	0	令和6年度以降, 順次改善が見込まれる。(大学マネジメント層, 学長等クラス, 男性)
46	2	2	0	着実に進んでいるが, 研究支援者の確保→外部資金の増加→研究支援者の更なる確保, というサイクルがまだ強く回っていない。(大学マネジメント層, 教授, 部局長等クラス, 男性)
47	2	2	0	サイエンスアドミニストレーションの整備を急ぐべき。(国研等マネジメント層, 学長等クラス, 男性)
48	2	2	0	研究資金集めのため, また, 教育の側面での負担が大きいと感じる(大企業の代表等, 学長等クラス, 男性)
49	1	1	0	研究者が自費でパソコンを購入し, 夜遅くの研究は自己研鑽となる。研究者個人への負担が多すぎる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等, 学長等クラス, 男性)
50	2	1	-1	組織改組によって研究支援基盤が崩壊した。(大学現場研究者・自然科学, 第1G, 理学, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
51	2	1	-1	無用に煩雑な会計システムや, 細々とした事務からの問い合わせへの対応に, あまりにも時間がとられ過ぎる。年々ひどくなっている気がする。(大学現場研究者・自然科学, 第1G, 理学, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
52	3	2	-1	あるレベルの人が犠牲になっている印象が強い。(大学現場研究者・自然科学, 第1G, 工学, 教授, 部局長等クラス, 男性)
53	3	2	-1	研究者の事務仕事が年々増えているように感じる。また事務が責任を各研究者に投げて, こちらとしてはお伝えしていますから責任はそちらです。と言われているように感じる。海外のように, それぞれのセクションでの責任をとるような雰囲気がない。(大学現場研究者・自然科学, 第1G, 農学, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
54	4	3	-1	研究支援者の確保は不足している(大学現場研究者・自然科学, 第1G, 保健, 助教, 研究員クラス, 女性)
55	2	1	-1	教員一人当たりのDutyの量の差が大きすぎることがある(一定の教員ばかりに集中している)。(大学現場研究者・自然科学, 第2G, 農学, 助教, 研究員クラス, 女性)
56	3	2	-1	非効率な事務作業が多い(大学現場研究者・自然科学, 第2G, 保健, 教授, 部局長等クラス, 男性)
57	2	1	-1	人員減少による負担増, 掃除や薬品管理, 事務手続き, アンケート調査など研究には直接関係ない業務にとられる時間が多すぎる。(大学現場研究者・自然科学, 第2G, 保健, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
58	3	2	-1	教職員減, 改組により, 授業以外の事務的作業やガイダンス等の作業時間, 校舎間移動時間がかなり増加した。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 工学, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
59	4	3	-1	十分ではないが, 同じ職場の他の先生方も皆同じ環境です。絶対的な業務量が減らない限りは, 誰かにしわ寄せが行くこととなります。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 農学, 教授, 部局長等クラス, 女性)
60	2	1	-1	デジタルツールが増えすぎて, かえって研究時間が削られている状況です。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 農学, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
61	3	2	-1	色々な申請を電子化するなど取り組みは行われているものの, それぞれの申請で異なる方法で電子申請しなければならぬなど煩雑さは変わっていないため。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 農学, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
62	3	2	-1	教育や学内業務が多く, 研究活動が十分に出来ていないケースもある。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 保健, 教授, 部局長等クラス, 男性)
63	2	1	-1	雑用があまりにも多くなった。(コレは意味のある雑用ではあるが(笑))(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 保健, 准教授, 主任研究員クラス, 男性)
64	2	1	-1	研究室管理(毒劇物, アイントープ)に関わる書類が煩雑かつ頻繁。必要性が低い場合にも, 書類作成を求められる。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 保健, 准教授, 主任研究員クラス, 女性)
65	2	1	-1	外部資金獲得のサポート(添削など)が少ない。(大学現場研究者・自然科学, 第3G, 保健, 助教, 研究員クラス, 男性)

66	5	4	-1	教授は忙しいと思うが、准教授以下は学内業務は抑えられていると思う。ただ、入試業務が増えていると感じる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
67	2	1	-1	デジタルツールの活用によって、かえって時間を取られるようになった。デジタルが常に良いとは限らないのに(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
68	6	5	-1	事務系の職員の仕事が管理面の仕事の比重が増え、研究者支援が以前より劣化していると感じる。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
69	4	3	-1	事務組織のメンバー交代により状況が悪化した。デジタルリソースの必要性はますます高まっているが追従できていない。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
70	3	2	-1	情報セキュリティの強化やコンプライアンスの重視に時間が取られすぎている。もちろんこれらの内容は重要であるが、効率化を進めないといけない。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
71	2	1	-1	他部署にあわせることで、問題なく簡略化できていた書類が複雑化するなど、事務仕事が増加し研究時間が減る方向になったため。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
72	3	2	-1	お役所仕事の不要な書類が多く、その作成に割かれる時間が研究を圧迫している(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
73	2	1	-1	事務手続き、教育、点検、その都度の申請や承認等々、大事なものはわかるが、年々増えており、本業の研究を圧迫する。特に事務手続きは、簡素化や整備が必要。研究支援側も余裕がないのが見え、人員確保が必要。デジタルツールは便利であるが、例えば今まで資料閲覧や代表者の参加で済んでいたものがオンライン会議化され拘束時間が生じる等のデメリットもある。事務処理のデジタル化の過渡期と耐えているが、様式や方法が転々と変わるので、手軽にできず労力を要する。それらに対応していると机にいる時間が増え、実験を軌道に乗せられず大変ストレスが大きい。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
74	3	2	-1	ライフイベントの影響もあるが、研究時間は減っているように感じる(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
75	3	2	-1	正規ポストになり、授業など学務拘束が入るようになったため。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
76	2	1	-1	次々に規則と対応が増えて研究を圧迫している(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
77	2	1	-1	それなりの形を作ろうという気はありそうですが、それに便乗して大学が余計な仕事を増やす。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
78	2	1	-1	事務作業に無駄が多い(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
79	2	1	-1	いわゆる10年ルールによってスキルのある研究支援者が減ってきている(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
80	3	2	-1	研究者個人の負担が増えていると感じるため。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
81	2	1	-1	事務職員を十分に雇用できない状況において、教員の研究時間の確保はますます困難になっている。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
82	2	1	-1	コロナを経て、学務の他、学生指導により時間をとられています。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
83	2	1	-1	外部資金をとっても、それによって部局からのサポートがないため、授業数を軽減させるなどの配慮が必要。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
84	3	2	-1	特段の取り組みを行っていない。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
85	3	2	-1	大学を取り巻く環境が悪化してきている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
86	3	2	-1	デジタルツールの活用が不十分。研究支援者の数も不十分。研究以外の大学業務負担が多過ぎると思います。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
87	3	2	-1	教授クラスの研究時間が減少している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
88	3	1	-2	組織マネジメントが増える一方で、研究のエフォートがほとんどないのが現状である。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
89	3	1	-2	本当に必要なかと思われる書類や、購入のための書類が多い。また、アナログ的な時間のかかるものが多い。もっと簡素化できないのか。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,男性)
90	4	2	-2	職位が上がるほど、研究時間の確保が難しいことを実感するようになった。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
91	3	1	-2	情報セキュリティの名目で手続きや規制が増え、監視・管理の圧が強く、手続きも増えたため研究活動にゆとりや余裕がなくなった。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
92	4	1	-3	多くの事務手続きが紙媒体であり、手間がかかりすぎる。教員組織内でもエフォート管理がなされていないため、場合によっては過度の負担が生じ、ワークライフバランスは崩壊する。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)

Q205. 研究活動を円滑にマネジメントするための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化							
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準偏差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年	
		1	2	3	4	5	6																	
		1	2	3	4	5	6																	
大学の自然科学研究者	3.1	34.1	24.8	21.2	11.1	4.5	1.3	32,764	2.6	0.12	1.2	2.6	2.7	2.6	-	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	
国研等の自然科学研究者	2.2	32.3	31.9	13.3	15.8	4.5	0.0	6,393	2.5	0.25	1.3	2.5	4.5	2.7	2.5	-	-	0.0	-0.2	-	-	-	-	-0.2
重点プログラム研究者	5.4	34.0	25.1	16.6	10.0	6.2	2.7	800	2.7	0.14	1.2	2.6	4.5	2.9	2.7	-	-	-0.2	0.0	-	-	-	-	-0.2
人文・社会科学系研究者	2.7	30.9	30.0	16.6	15.3	3.5	0.9	2,145	2.6	0.35	1.3	2.7	4.5	2.6	2.6	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0
大学マネジメント層	0.0	13.6	37.4	25.1	21.4	2.5	0.0	243	3.2	0.00	2.2	3.3	4.9	3.3	3.2	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-	-0.1
国研等マネジメント層	1.7	3.4	43.1	31.0	12.1	6.9	1.7	58	3.6	0.00	2.5	3.5	4.8	3.4	3.7	-	-	0.3	-0.1	-	-	-	-	0.2
企業全体	18.6	22.4	40.0	16.6	2.2	0.1	0.0	4,098	2.0	0.13	1.5	2.4	3.3	2.3	2.1	-	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-	-0.3
大企業	18.3	7.7	47.9	19.7	5.6	0.7	0.0	831	2.6	0.13	2.1	2.8	3.8	2.7	2.7	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-	-0.1
中小企業・大学発ベンチャー	18.7	26.1	38.0	15.9	1.3	0.0	0.0	3,267	1.8	0.16	1.3	2.3	3.2	2.2	2.0	-	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4
俯瞰的な視点を持つ者	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学グループ	4.9	24.8	26.8	17.9	15.6	5.8	4.2	6,244	3.2	0.26	1.6	3.1	5.2	3.0	3.1	-	-	0.1	0.1	-	-	-	-	0.2
第1グループ	4.1	31.0	26.8	23.1	9.5	5.2	0.3	8,926	2.6	0.20	1.3	2.7	4.4	3.0	2.7	-	-	-0.3	-0.1	-	-	-	-	-0.4
第2グループ	3.3	36.3	24.6	19.7	10.8	3.7	1.6	8,130	2.5	0.23	1.1	2.5	4.3	2.5	2.4	-	-	-0.1	0.1	-	-	-	-	0.0
第4グループ	0.7	41.1	21.8	22.7	10.0	3.7	0.0	9,463	2.3	0.23	1.0	2.3	4.2	2.2	2.2	-	-	0.0	0.1	-	-	-	-	0.1
大学部局分野	3.2	31.2	22.3	23.2	11.8	4.7	3.5	5,050	2.9	0.28	1.3	3.0	4.7	2.6	2.8	-	-	0.2	0.1	-	-	-	-	0.3
工学・農学	3.9	36.0	25.4	19.4	10.7	3.9	0.7	14,627	2.4	0.16	1.1	2.5	4.2	2.8	2.5	-	-	-0.3	-0.1	-	-	-	-	-0.4
保健	2.1	33.0	25.1	22.3	11.3	5.1	1.1	13,086	2.7	0.20	1.2	2.7	4.5	2.5	2.5	-	-	0.0	0.2	-	-	-	-	0.2
臨床	0.8	40.4	22.6	17.0	18.8	0.4	0.0	2,691	2.3	0.42	1.0	2.3	4.5	2.8	2.2	-	-	-0.6	0.1	-	-	-	-	-0.5
臨床以外	3.3	33.5	25.0	21.5	10.4	4.9	1.4	30,073	2.6	0.12	1.2	2.7	4.4	2.5	2.6	-	-	0.1	0.0	-	-	-	-	0.1
教授	1.2	34.5	26.5	22.0	11.6	3.4	0.6	12,627	2.5	0.17	1.2	2.6	4.3	2.5	2.6	-	-	0.1	-0.1	-	-	-	-	0.0
准教授	3.0	34.7	23.1	20.3	12.2	5.7	1.0	14,013	2.6	0.18	1.2	2.7	4.6	2.5	2.5	-	-	0.0	0.1	-	-	-	-	0.1
助教	7.0	31.6	25.2	21.3	7.6	4.0	3.3	6,124	2.6	0.29	1.2	2.7	4.3	3.1	2.6	-	-	-0.5	0.0	-	-	-	-	-0.5
性別	2.9	33.1	24.2	21.6	12.0	4.7	1.4	27,649	2.7	0.13	1.2	2.7	4.5	2.7	2.6	-	-	-0.1	0.1	-	-	-	-	0.0
女性	3.8	39.1	28.3	18.5	6.2	3.2	0.8	5,115	2.1	0.14	1.0	2.2	3.8	2.4	2.2	-	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-	-0.3
任期	4.6	22.7	24.6	23.0	17.2	6.7	1.1	7,672	3.2	0.22	1.7	3.4	5.1	2.9	3.0	-	-	0.1	0.2	-	-	-	-	0.3
任期無	2.6	37.5	24.9	20.6	9.3	3.8	1.3	25,092	2.4	0.13	1.1	2.4	4.2	2.6	2.4	-	-	-0.2	0.0	-	-	-	-	-0.2

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q205. (意見の変更理由)研究活動を円滑にマネジメントするための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	3	6	3 不要です。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	1	4	3 知財や倫理審査等に関する相談支援がある。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,女性)
3	2	4	2 URA組織が拡充したため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	3	5	2 リサーチ・アドミニストレーターによる支援が活性化していると思われます。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
5	1	3	2 人数は充分ではないが,専門人材が登用された。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教、研究員クラス,女性)
6	1	3	2 人材確保は十分だが,育成や能力が十分かどうかは評価が困難。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
7	1	3	2 URAが一応いるにはいるので変更した。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
8	2	4	2 研究支援部門には,イノベーション推進本部を新設し,知財部門,スタートアップ部門,OI部門にそれぞれ専門人材を配置し,より充実した体制となっている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
9	2	4	2 シニアURAを設置した(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
10	2	3	1 URAが配属されたことによりマネジメントが強化されたと思われる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
11	2	3	1 RAの方のご協力が増えた。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,助教、研究員クラス,男性)
12	1	2	1 研究協力課のサポート力が向上している。ただし同課職員の業務が増え,対応しきれないように見受けられるため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
13	2	3	1 まだ利用はしていないが近年リサーチ・アドミニストレーターによる支援が充実してきたよう。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
14	2	3	1 他領域間の研究をマッチングさせる取り組みが新たに行われ始めた。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	1	2	1 本省からの出向者が研究経験もないのに数年で帰るのにマネジメントをして,うまくいくはずがない。近年複数の国研では,本省から出向してくる幹部役人の数が急増しており,研究の現場をわかってくれない人が多いこともあり,ますます問題になっている。しかし,国研を評価や管理する側がそもそも本省の役人なわけでもない対応は根本的にできないように見える。また,国研では親会社である本省から役人を引き取って運営していくことへ文句を言うことは半分タブー扱いであり,うまく改善する見込みもなく,絶望を感じる。ただ唯一の望みは,組織を客観視できる力を本省からの出向のマネジメント人材は持っていることである。その辺りが女性活躍などの面で発揮されることを私は期待しているし,それが発揮される場面も実際に見受けられ,研究者より頼りになると思う。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
16	2	3	1 RAの拡充は進行中である。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
17	1	2	1 URAや研究申請書の外部査読が始まったが限定的なので2とした(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,女性)
18	1	2	1 URAの増員(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	1	2	1 URAの人数が1名から3名に増える予定。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
20	1	2	1 リサーチ・アドミニストレーターやコーディネーターを雇用しているものの,高齢のため育成が困難。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
21	1	2	1 ようやく学内でURA採用に係る予算確保に目途がついた状況である。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
22	1	2	1 アドミニストレータのキャリアが整備されていない。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
23	4	5	1 URA, 高度専門職員を増員した。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
24	2	3	1 優秀なURAの確保はできている。ただし,雇用費用が限られており,安定した継続雇用ができるのか不案内(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
25	2	3	1 専門人材の確保に意識し始めたところ(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
26	1	2	1 専門職人材の重要性は以前よりも認識されつつあるように思われる。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
27	3	4	1 リサーチアドミニストレーターなどの職を置き,産学連携に活用している例が見られるようになっていた。(例:〇〇大)(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
28	1	2	1 サポート人員に対する予算措置が多少改善されている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
29	2	3	1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○設立など,環境が整って来ていると思われるため(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
30	2	3	1 第一線を退いたOBをはじめとした知識・経験が豊富な人材の活用が進みつつある(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
31	1	1	0 これが整っている学校は日本にはない。質問するまでもない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
32	1	1	0 全てのやり直しが必要。事務の方の為に働く。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
33	3	3	0 専門人材はいるが,それらが十分に活用されているかどうかは分からない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)

34	1	1	0	学科で活躍していた技術員が、複数の学部で勤務することとなり、授業支援の依頼が困難となっている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
35	5	5	0	URAの配置は、執行部が力を入れてやっていると思われる。私も科研費申請でかなり利用させてもらっている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
36	1	1	0	専門人材を育成しても雇用するための仕組みがない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
37	2	2	0	おそらく動きはありますが、期待したいところです。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
38	1	1	0	いないものと認識しています。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
39	1	1	0	専門人材の雇用が自由のできないため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
40	1	1	0	URAなどいるにはいるが研究者との連携ができておらず機能しているとはいえない(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
41	1	1	0	このような人材の育成や確保には、個々の細かな問題をその都度正しつづ前進する気風が必要となる。所属機関では事務システムではこの真逆の考え方が横行している。人材育成のためにはまずは事務の上位職者の意識改革(教育)が必要であると痛感している。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
42	1	1	0	間接部分を担うポストの数が増えたものの、適切な人材がいいため、採用が困難である(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
43	3	3	0	部署と人材は存在するが、機能しているかは別問題であり、裨益を受けている研究者は一部に限定されるように思われる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
44	2	2	0	大学全体としての部署の設置は進んでいるが、部局まで専門家の支援は行き届くところまで到達していない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
45	1	1	0	5年ルールによる技術補佐員の雇い止めで、競争的資金は準備できるにもかかわらず、ある研究テーマが頓挫する危機に陥った。せつかく5年かけて育成した優秀な人材を雇い止めされるのは大変困る。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
46	6	6	0	ただこの人たちは事務作業をするわけではない(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
47	1	1	0	そのような人はいない。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
48	1	1	0	研究活動を進める上で、研究費を執行したり出張するための日常的な事務作業に対する業務・時間的な負担が大きいですが、そうした負担については研究者自身が対応しなければならぬ状況にあるが、それらについては全く考慮も、確保もされていない。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
49	2	2	0	令和6年度以降、大幅な改善が見込まれる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
50	2	2	0	一定数の人材の確保は進んでいるが、更なる確保が必要。研究支援専門人材のプレミア感の醸成が必要。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
51	2	2	0	URAの人数は増えてきているが、質については個人差が大きいと感じている。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
52	2	2	0	ビジネス経験のある民間からの人材登用、特に、大学のマネジメントに人を充てるべき。海外有名大学とは大きな差がある。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
53	1	1	0	どのような基準で「円滑」というのは難しい。50年前は技術支援者や技能者が大学に多かったが、いまはいない。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
54	1	1	0	そもそも、マネジメントする事が自分の任務である事を認識していない教員がほとんど。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
55	1	1	0	大企業OBなどが多く全く機能していない。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
56	1	1	0	専門の人材がいいため、自ら兼務してリサーチを行っている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授、主任研究員クラス,女性)
57	2	1	-1	組織改組によって研究支援基盤が崩壊し、教員が担っている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
58	2	1	-1	URAなどが十分に活用されていない(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
59	3	2	-1	そんな予算がどこにあるのか?(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
60	4	3	-1	制度はあるものの、あまり活用されていない感じ(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
61	3	2	-1	雇用されておらず、教員に仕事が回ってきているので。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
62	2	1	-1	技術系職員が明らかに不足している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
63	3	2	-1	業務は拡大しているが、人材は増えていない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
64	3	2	-1	専門人材の人数が少なく、多様性が乏しいと感じたため。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,男性)
65	3	2	-1	誤解があるかも知れませんが、本学では企業をリタイアした専門外の方が就任されることが多いようです。そのような方々に期待できるはずもなく、相互に残念な状況になっています。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
66	2	1	-1	部局レベルには専任の専門人材が配置されておらず、教員への事務負担が大きい(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
67	2	1	-1	活用の仕方がアナウンスされていない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
68	4	3	-1	所属機関の業務量が増え、その結果研究活動に関わる業務をする人材の不足を感じたから(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)

69	3	2	-1	リサーチ・アドミニストレーションセンターはあるが、専門の人材は少なく、研究活動を円滑にできるレベルにはなっていない。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
70	6	5	-1	会計検査や文部科学省の監査等の対応といった管理業務の負担が増えており、間接部門の人的リソースがそれらに吸い取られていると感じる。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
71	2	1	-1	該当職に新たについて人材の活躍が現場レベルで全く見えてこないため。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
72	3	2	-1	大学では申請書のチェックなどが行われており、適切なサジェスションがあると思うが、科研費に関してはそのようなサポートはない。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
73	2	1	-1	任期満了によりRAはいなくなった。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
74	4	3	-1	長くいる研究者(私)に雑務が押し付けられる傾向が年々ひどくなる。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
75	2	1	-1	個別のプロジェクトを担当するアドミニストレーターや研究者の実務にプラスにならないコーディネーターが多く、全体の研究マネジメントやプランニングに関する人材が非常に少ない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
76	2	1	-1	そもそも、そうした人材がいません。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
77	2	1	-1	部局にRAは存在しません。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
78	3	2	-1	URAが増えない(増やせない)状況下で、役割・用務が増加しており、不足している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
79	3	2	-1	URAの人数はいるものの、研究のサポートという観点で教員との協力体制が十分と言えない(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
80	4	3	-1	財政上の理由で退職者の補充ができなくなった。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
81	4	3	-1	人材やポストが足りていません。育成されていません。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
82	4	3	-1	適切な人材の確保が難しくなっている。待遇と能力のマッチングが難しい。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
83	3	2	-1	まだまだ足りない。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
84	5	4	-1	博士の学位を取得したURAが転出(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
85	2	1	-1	RAあるいはそれに該当するポストはない。定年延長のため人件費に余裕がなく、RAの新規雇用の予定も中止となった。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
86	3	2	-1	分野によって偏りがあり、重要活動で不足している認識。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
87	6	4	-2	能力の高い専門人材が定年退職したため。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
88	3	1	-2	外国人研究者を招聘する際、様々な実務を受入研究者本人がする必要があり多くの時間を割いた。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
89	3	1	-2	専門人材を雇用する財源は教員の自助努力に委ねられており、財源確保が追い付かず、先細りの一途である。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
90	4	2	-2	他大学に比してかなり少ないことを知った。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
91	4	2	-2	そうした専門人材の雇用が進んでいないことが分かってきた。研究活動を補助する事務職員の数も足りていない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
92	4	2	-2	多少の人材不足(人手が足りていない)(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
93	4	2	-2	現在の所属先にはそういった専門人材を雇用するための予算がおそらくついていない。(人文・社会科学系研究者,助教、研究員クラス,女性)
94	5	2	-3	そういった人材が配置されているかもしれないが、育成(引継ぎ)がされていないせいか、人員不足のせいか、機能していない場合がある。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
95	4	1	-3	他機関の話聞く機会があり、比較して所属部署ではあまり確保されていないと感じた(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)

Q206. 研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

集計グループ	2023年度調査													各年の指数					指数の変化							
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第4四分点	中央値	第4四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年			
		1	2	3	4	5	6																			
		0.7	1.1	1.5	1.9	2.3	2.7																			
大学の自然科学研究者	0.8	16.6	19.9	19.7	25.6	13.4	4.1	32,764	4.2	0.12	4.4	6.2	4.6	4.4	4.2	-	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4	1	
国等の自然科学研究者	1.1	8.9	11.2	18.3	22.1	26.6	11.7	6,393	5.6	0.31	5.8	7.5	5.5	5.8	5.6	-	-	0.3	-0.2	-	-	-	-	0.1	2	
重点プログラム研究者	1.5	17.0	18.5	20.8	15.4	20.8	5.8	800	4.4	0.16	4.4	6.8	4.9	4.6	4.4	-	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-	-0.5	3	
人文・社会科学系研究者	2.4	19.3	29.3	12.0	23.1	11.7	2.2	2,145	3.7	0.39	3.4	5.9	4.3	4.1	3.7	-	-	-0.2	-0.4	-	-	-	-	-0.6	4	
大学マネジメント層	0.4	5.3	24.3	28.4	29.2	11.1	1.2	243	4.4	0.00	4.5	6.0	4.6	4.6	4.4	-	-	0.0	-0.2	-	-	-	-	-0.2	5	
国研等マネジメント層	0.0	1.7	32.8	19.0	22.4	19.0	5.2	58	4.8	0.00	4.7	6.6	5.3	5.3	4.8	-	-	0.0	-0.5	-	-	-	-	-0.5	6	
企業全体	8.3	16.7	39.6	19.3	13.5	2.6	0.0	4,098	2.8	0.18	1.9	2.9	4.4	3.3	3.0	2.8	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-	-0.5	7	
大企業	3.5	4.9	34.5	39.4	14.8	2.8	0.0	831	3.5	0.14	2.6	3.7	4.7	3.8	3.6	3.5	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-	-0.3	8	
中小企業・大学発ベンチャー	9.5	19.7	40.9	14.2	13.2	2.5	0.0	3,267	2.6	0.22	1.8	2.7	4.2	3.2	2.8	2.6	-	-0.4	-0.2	-	-	-	-	-0.6	9	
俯瞰的な視点を持つ者	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
大学グループ	0.7	6.4	14.4	16.0	31.8	22.3	8.4	6,244	5.5	0.22	3.8	5.7	7.1	5.6	5.7	5.5	-	0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.1	11	
第1グループ	2.0	13.6	22.9	18.0	24.6	13.5	5.3	8,926	4.4	0.23	2.5	4.5	6.3	4.9	4.6	4.4	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-	-0.5	12	
第2グループ	0.2	18.6	21.7	25.1	25.0	8.7	0.6	8,130	3.7	0.22	2.2	4.0	5.6	4.1	3.9	3.7	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4	13	
第3グループ	0.2	24.3	19.1	19.1	23.0	11.3	3.1	9,463	3.7	0.26	1.7	3.9	5.9	4.1	3.7	3.7	-	-0.4	0.0	-	-	-	-	-0.4	14	
第4グループ	0.5	15.5	18.2	17.5	26.6	16.0	5.9	5,050	4.5	0.27	2.5	4.9	6.5	4.9	4.9	4.5	-	0.0	-0.4	-	-	-	-	-0.4	15	
大学部局分野	1.0	13.9	24.4	17.5	23.0	16.0	4.2	14,627	4.3	0.18	2.4	4.4	6.3	4.7	4.5	4.3	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4	16	
工学・農学	0.7	19.9	15.5	23.0	28.2	9.4	3.3	13,086	4.0	0.20	2.2	4.4	5.9	4.4	4.1	4.0	-	-0.3	-0.1	-	-	-	-	-0.4	17	
保健	0.7	25.3	13.5	19.5	31.2	7.8	2.0	2,691	3.8	0.50	1.6	4.3	5.9	5.0	3.5	3.8	-	-1.5	0.3	-	-	-	-	-1.2	18	
臨床	0.8	15.8	20.5	19.7	25.1	13.9	4.3	30,073	4.3	0.13	2.4	4.5	6.2	4.3	4.2	4.3	-	-0.1	0.1	-	-	-	-	0.0	19	
臨床以外	0.2	13.4	24.8	23.3	23.0	14.5	0.8	12,627	4.1	0.18	2.4	4.2	6.0	4.5	4.3	4.1	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4	20	
教授	1.3	17.5	19.2	15.3	29.8	11.1	5.9	14,013	4.3	0.20	2.3	4.7	6.2	4.6	4.5	4.3	-	-0.1	-0.2	-	-	-	-	-0.3	21	
准教授	0.9	20.9	11.2	22.4	21.6	16.0	6.9	6,124	4.4	0.27	2.3	4.6	6.5	4.7	4.3	4.4	-	-0.4	0.1	-	-	-	-	-0.3	22	
助教	0.4	16.4	20.2	18.1	26.8	13.9	4.1	27,649	4.3	0.14	2.4	4.5	6.2	4.6	4.4	4.3	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-	-0.3	23	
男性	2.5	17.3	18.1	28.5	19.2	10.5	3.9	5,115	4.0	0.16	2.3	4.1	5.8	4.6	4.3	4.0	-	-0.3	-0.3	-	-	-	-	-0.6	24	
女性	0.4	12.3	16.8	25.5	23.5	15.7	5.7	7,672	4.6	0.21	2.9	4.7	6.4	4.9	4.6	4.6	-	-0.3	0.0	-	-	-	-	-0.3	25	
任期有	0.9	17.9	20.8	17.9	26.3	12.6	3.6	25,092	4.1	0.14	2.2	4.3	6.1	4.5	4.3	4.1	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-	-0.4	26	
任期無																										

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

35	2	1	-1	雨漏りするなど老朽化が目立ちます。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
36	3	2	-1	ディスカッションルームなどが少ないため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
37	4	3	-1	大型の施設はあるが、古く修繕や更新が必要である。ただし、なかなか予算確保がむずかしい(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,男性)
38	3	2	-1	大型の共通機器が古くなってきているが更新する大型予算がない(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
39	2	1	-1	じっくり取り組めるだけの研究資金がない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)
40	3	2	-1	研究室に所属する学生数や研究事業(必要となるスタッフや打合せ機会)は増えているものの、研究室で利用できるスペースが限られているため。その理由として、これまでの慣例で、既得権のように研究スペースの利用権利が決められているためであると感じ始めたため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
41	2	1	-1	耐用年数を超えた機械が更新されない。壊れたら研究が止まるので、冷や冷やしている(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
42	3	2	-1	研究資材が高騰しており、高額機器類(DNAシーケンサーや電子顕微鏡など)の保持が難しくなりつつある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
43	2	1	-1	経年劣化や故障などによる研究施設・設備の改修や修理が十分に行われず、時代遅れの研究施設・設備になりつつあり、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成が難しくなっている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)
44	4	3	-1	建物の老朽化により色々な問題点が出始めている。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
45	3	2	-1	当方はある程度進められる基盤があるが、地方大学は不十分だと思う。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
46	3	2	-1	情報系のインフラの貧弱さと脆弱さはデジタル庁と同様に問題があると思われる。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
47	4	3	-1	一部の教員にとっては十分だが、そうではない分野も存在するのは事実。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
48	3	2	-1	設備はあるが老朽化が進んでいる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
49	3	2	-1	共有設備が老朽化しており、メンテナンスにより使用できないことが増えつつある。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
50	2	1	-1	装置はあるが古く最新研究に使いづらい。例えば3D造形装置(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
51	3	2	-1	研究施設改修・設備更新に要する財源の当てが困難な状況。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
52	4	3	-1	先端研究の多様化・高度化に施設設備が追いついていない。研究のDX化の遅れも顕著。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
53	5	4	-1	研究力の強化を行うに際し、研究スペースの確保が恒常的に困窮している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
54	3	2	-1	本学としても狭隘なキャンパスの中で工夫はしてきているが、先進的他大学に比してかなり貧弱に感じるようになった。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
55	4	3	-1	新規の研究機器を購入する予算が足りず、研究機器の修理費さえも不足しがちです。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
56	4	3	-1	設備が老朽化してきているが、そのリプレースの予算確保が課題である。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
57	4	3	-1	優れた研究施設・設備もあるが、予算要求の段階で優先順位がつくため、すべての分野に必要な研究施設が整備されているわけではない。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
58	2	1	-1	施設が老朽化して更新ができていない(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
59	4	3	-1	機器の陳腐化に伴うメンテナンスが増えており、研究活動に支障を来す恐れがあるため。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
60	3	2	-1	博士課程の修了要件が易しくなり、レベルが下がっていると感じる。海外でもそう指摘する企業がある。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
61	5	4	-1	中国に負け始めてきた。国内でできない(やってもらえない)分析を中国の外注企業に回したという話を最近よく聞く。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
62	3	1	-2	組織改組によって研究基盤が崩壊した。施設設備の更新もままならない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
63	4	2	-2	どんどん故障しているのに機器が更新できません。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
64	3	1	-2	建物の老朽化が激しく、せめて地震が起こっても大丈夫なように、耐震工事はしてほしいが、こればかりは文科省からの出資が必要になるので、どうしようもない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
65	4	2	-2	赴任して3年経って、学部共用スペースの広さに限界を感じるようになった。分属してきた学生一人一人に実験をさせるスペースが十分でないことに気がついた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
66	4	2	-2	電気代高騰による過度な節電要請が多かったため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
67	3	1	-2	組織が研究をあきらめている(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
68	5	3	-2	実験スペースの確保が年々難しくなっているため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)

69	3	1	-2	新所属先では、共通機器として配備されるべき一般的な機器が不足している。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
70	4	2	-2	老朽化が進んでいるにも関わらず、必要なところに資金が配分されなくなった。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
71	3	1	-2	施設・設備が古くて定期的に工事等が行われ研究が中断したり引越し業務にエフォートを割かれたり、研究業務へ集中できない期間が生じ、優れた研究開発の推進には難があると感じる(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
72	5	3	-2	コロナ禍からの回復に伴い研究スペースの不足が顕在化している。また、生成AIなどの新しい技術の研究にはこれまでにない大規模な計算資源が必要になり、研究施設・設備の増強が喫緊の課題となっている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
73	5	3	-2	全体として考えると、設備の老朽化の進行や先端設備の導入の高騰の影響があると考える。(国研等マネジメント層,学長等クラス,女性)
74	6	3	-3	部局単位では特に感じない。先端的な研究開発には、最新の機器や技術が必要だが、近年、所属部局単位で最新の機器の購入はなく、また、人事的な流動性もないため、新しい技術や知識を持った人も導入されない。外からの情報が閉ざされた鎖国の状態な気がする。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,助教、研究員クラス,女性)
75	4	1	-3	大学院や研究を支える体制がない。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
76	5	2	-3	大型研究施設の運用経費(光熱水量、保守費用)の確保が難しい。特に電気代の高騰のためにスパコンは1/2の縮減運転状態を続けており、学術的に大きな損失である。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
77	5	1	-4	独立にあたり、壁や床の補修などを実施する必要があるが、間接経費をほぼ利用できず、実施が困難になる(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
78	5	1	-4	部屋が不足している。実験室も居室も。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
79	5	1	-4	本年度に予定していた老朽化実験研究施設の大規模改修が入札不良にて頓挫した。研究設備の維持管理における明瞭な長期計画も明示されておらず、短期の改修の実行も撤回された状態で、研究活動へのダメージは非常に大きい。創造的・先進的な研究開発を促すどころか、現時点では明瞭な阻害要素になっている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)

Q207. (意見の変更理由)組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

前回	2023	差		
1	2	4	2	ソフトウェアを全学共通で無償利用できるようになった(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
2	3	5	2	大学が共用施設の一元化を進め,だいぶ使いやすくなっていると思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
3	2	4	2	学部内では十分ではありませんが,全学では利用可能機器があることを知ったため変更しました(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	3	4	1	利用可能な共用設備の情報が少し手に入りやすくなっていると思われる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
5	2	3	1	各研究分野での対応となっている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
6	1	2	1	申し込めば活用できるが,他の分野が利用するのは現状では難しいと思う。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
7	1	2	1	共用機器のリストを作成し更新しつつあるようだが,実際に使用できる機器は非常に限られているため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
8	3	4	1	令和3年度に文部科学省のコアファンリティ構築支援プログラムに採択され,研究組織と研究環境の整備が進んだ。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
9	5	6	1	最近,システムが整えられてきた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
10	3	4	1	研究・計算リソースをバーチャル空間で共有できるような取り組みがプロジェクトとして始まったため,活用には課題あり。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
11	1	2	1	以前はある程度整備されていたが,全学として学生数の不足から,一層,汲々としている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
12	3	4	1	基本的な研究に必要な機材等を整備でき始めたため(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
13	3	4	1	他部局等の設備や機器の情報が整理され公開されたことにより,共用設備が使いやすくなった。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
14	4	5	1	今年度からセンター長の指示で,研究施設を紹介する発表会が開催されるようになり,状況が把握しやすくなった。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
15	3	4	1	少しずつ,共有化が進んでいるが,共通機器をメンテナンスする人材がおらず,教員の仕事が増加している。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
16	3	4	1	設備の共有に関して少し改善が見られた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
17	2	3	1	整備の取り組みを開始。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
18	2	3	1	機器共用センターが稼働を始め,一定程度の改善は行われつつある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	2	3	1	一部施設等で増築・改修を行い,整備が進んだため。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
20	1	2	1	オープンラボを整備し,若干研究環境を改善した。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
21	2	2	0	ほぼ共有がなく,各研究室で揃わないといけない状況です。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
22	2	2	0	もっと共通機材とそれを運用する人材をふやすべき。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
23	1	1	0	共同研究施設の整備および運営の改革が急務(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
24	4	4	0	仕組みとして,ある程度整っても,分散キャンパスであるため,極めて利用しにくい。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
25	1	1	0	一部の先生の共有機材になっています。共有スペースのセキュリティや使用時間制限が厳しすぎて,せっかくあるのに使えません。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
26	3	3	0	これは組織というより国の研究予算の使用法に関する課題であるが,共用機器(いわゆるハコモノと同義)を購入するための予算はついても,それを維持管理する人件費については何も考慮してもらえないので,よい設備はあるけど導入に尽力した研究者が異動した結果,誰もまともに使えなくてもつらい,という事例が発生しており,この状況は前回回答時と全く変わっていない。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
27	2	2	0	各部署が保有する機器が全て知らされていないわけではないため,共用できていないものがあると思われる(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
28	2	2	0	共用に供する設備がない(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
29	5	5	0	十分。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
30	4	4	0	共通機器といえど費用が掛かり,研究費を圧迫します。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
31	1	1	0	あるにはあるが,われわれが利用できる種類のものではない。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
32	5	5	0	令和3年度文科省コアファンリティ構築支援プログラムに採択されており,急速に研究施設・設備・機器の共有化を展開している。特に臨床研究活性化のための検査・研究用生体試料を用いた機器共同利用・受託試験システムを構築している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
33	3	3	0	コアファンリティの共用については相当進んでいるが,諸外国と比較すると十分とは言えない。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)

34	6	6	0	より総合的な観点から適正・効率的な運用をはかるために、2023年度には〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇室を設置し、研究職員と技術職員で合議する体制を強化した。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
35	6	5	-1	〇研は研究室間が仲良しなので、うまく機能する。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
36	3	2	-1	共用のための人材(技術補佐員など)確保も計画的に行わなければ、共用の推進は難しいと思う。(大学現場研究者・自然科学、第1G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
37	3	2	-1	限られた時間で共用するには、限界があるため。(大学現場研究者・自然科学、第2G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
38	3	2	-1	機器はあっても使用方法について補助が得られるとは限らず、実質使用しにくい。(大学現場研究者・自然科学、第2G、保健、准教授、主任研究員クラス、女性)
39	3	2	-1	初年度は講習会があったが、次年度からは講習会もなく新任の教員は設備があることも知らないのではないかと思われるため(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、准教授、主任研究員クラス、女性)
40	3	2	-1	共通機器を整備し、運営する部署があり、仕組みはできているが、機器の更新ができていないため十分とは言えない。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、准教授、主任研究員クラス、女性)
41	5	4	-1	共用するための情報提示が不足していると感じる。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、女性)
42	3	2	-1	共用しているが、具体的に組織内どんな設備があるのかまとめて把握し広く他部署にも周知するなどの努力がなされていない(国研等現場研究者・自然科学、助教、研究員クラス、女性)
43	3	2	-1	部屋の確保が困難。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
44	5	4	-1	組織としては存在するが、機能しているかどうかはわからない。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
45	4	3	-1	研究基盤共用センターは整備されているが、十分な共用・活用には課題が多い(DX化、特定の目的に特化した機器が多いなど)(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
46	3	2	-1	機器の更新が不十分(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
47	2	1	-1	全学的な共通機器の整備がすすんでいないため。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
48	4	3	-1	機器の陳腐化に伴うメンテナンスが増えており、研究活動に支障を来す恐れがあるため。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
49	4	2	-2	共用機器等の修繕経費がない。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、准教授、主任研究員クラス、男性)
50	5	3	-2	技官不足(大学現場研究者・自然科学、第1G、工学、助教、研究員クラス、男性)
51	5	3	-2	共用の機器などであっても、実際に使用できる研究者に偏りがあると感じる(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、助教、研究員クラス、女性)
52	4	2	-2	本年度、電気代金の高騰のため、予算が不十分になり、実験装置・計算機を停止せざるを得ない状況があったため。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
53	6	4	-2	オペレーション技術者が不足してきている。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
54	6	3	-3	大学の運営費交付金が減少しているせい、新しい共通機器が購入できなくなっている。(大学現場研究者・自然科学、第1G、保健、助教、研究員クラス、女性)
55	5	2	-3	設備の共有はできているが、そもそも共通設備を新しく導入するお金が足りていない。(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、助教、研究員クラス、女性)
56	5	2	-3	設問の意味・意図が良くわからないが、当方は共用を意識している組織であるが、他の大学はそうではないので変更した。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
57	4	1	-3	世界情勢を受けて使用料金急上昇(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
58	5	1	-4	新所属先では、共通機器として配備されるべき一般的な機器が不足している。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、教授、部局長等クラス、女性)
59	6	2	-4	部局における共用機器の運用に関わる優秀な技術員(電子顕微鏡の試料作製と撮影の専門家)が、任期付であるために辞められたことが、研究実施において痛手となっています。実質的な任期無しの雇用でないと、共通機器の管理、運用に人が来てくれません。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
60	6	1	-5	本学は医学部と看護学部で構成され、医学部に関しては看護の教員も所定の手続きをすれば組織内で様々な共用は可能で十分と認識していました。しかしながら、看護学部内の研究に関する予算配分を拝見する機会があり、研究成果を全く出さない領域が機器のメンテナンスに予算の大部分をつぎ込んでいることを知ってしまいました。他の研究者の環境改善に予算がないのは、そもそも予算が不足しているのではなく、分配の問題と理解し、評価を変えました。この項目の評価で間違っておりましたら、申し訳ございません。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、准教授、主任研究員クラス、女性)

Q208. 大学・大学共同利用機関・公的研究機関が保有する共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)は十分だと思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化								
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準偏差	第4四分点	中央値	第4四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6												21→22	22→23	23→24	24→25			
		1	2	3	4	5	6												21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
大学の自然科学研究者	6.7	11.2	23.0	19.6	23.7	12.7	2.9	32,764	4.3	0.12	2.5	4.4	4.3	4.4	4.3	-	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-0.3	1	
国研等の自然科学研究者	10.9	5.9	6.3	20.0	34.5	19.9	2.6	6,393	5.4	0.25	4.2	5.3	5.4	5.5	5.4	-	-	0.2	-0.1	-	-	-	0.1	2	
重点プログラム研究者	6.6	14.7	15.8	26.6	18.1	12.0	6.2	800	4.3	0.15	2.6	4.7	4.5	4.3	4.3	-	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.4	3	
人文・社会科学系研究者	6.5	9.3	20.3	21.6	27.9	11.8	2.6	2,145	4.4	0.35	2.8	4.7	4.6	4.4	4.4	-	-	-0.1	-0.2	-	-	-	-0.3	4	
大学マネジメント層	4.5	2.5	27.2	44.4	16.0	4.5	0.8	243	3.9	0.00	3.0	4.0	4.0	3.9	3.9	-	-	0.0	0.0	-	-	-	0.0	5	
国研等マネジメント層	3.4	0.0	15.5	32.8	24.1	15.5	8.6	58	5.4	0.00	3.8	5.0	6.7	5.2	5.3	5.4	-	-	0.1	0.1	-	-	-	0.2	6
企業全体	11.9	17.2	33.0	16.7	17.2	3.4	0.5	4,098	3.0	0.20	1.9	3.0	3.0	3.1	3.0	-	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	7	
大企業	7.0	2.8	28.2	33.8	23.2	4.9	0.0	831	4.0	0.15	2.9	4.1	5.4	3.9	4.0	-	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	8	
中小企業・大学発ベンチャー	13.2	20.9	34.2	12.3	15.7	3.0	0.7	3,267	2.8	0.25	1.7	2.8	4.7	3.1	2.8	2.8	-	-0.3	0.0	-	-	-	-0.3	9	
俯瞰的な視点を持つ者	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
大学グループ	5.6	6.8	18.4	17.3	26.0	18.5	7.4	6,244	5.1	0.24	3.2	5.3	5.1	5.3	5.1	-	-	-0.1	-0.2	-	-	-	-0.3	11	
第1グループ	8.0	6.8	28.8	14.8	26.4	14.0	1.2	8,926	4.3	0.22	2.6	4.5	4.3	4.7	4.5	4.3	-	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.4	12
第2グループ	6.4	12.8	19.9	23.8	23.0	11.4	2.6	8,130	4.2	0.26	2.6	4.3	6.0	4.7	4.3	4.2	-	-	-0.4	-0.1	-	-	-	-0.5	13
第3グループ	6.5	17.0	23.4	22.2	20.2	8.9	1.9	9,463	3.7	0.25	2.1	3.8	5.6	4.0	3.7	3.7	-	-	-0.3	0.0	-	-	-	-0.3	14
第4グループ	5.3	8.1	12.1	17.8	30.9	20.4	5.5	5,050	5.3	0.25	3.7	5.5	6.8	5.1	5.1	5.3	-	-	0.0	0.2	-	-	-	0.2	15
理学	7.4	12.0	25.9	18.7	20.6	13.0	2.3	14,627	4.1	0.18	2.4	4.1	6.0	4.6	4.3	4.1	-	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-0.5	16
工学・農学	6.5	11.6	24.0	21.4	24.3	9.4	2.6	13,086	4.1	0.21	2.5	4.2	5.9	4.6	4.3	4.1	-	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-0.5	17
保健	6.0	8.4	33.1	24.5	18.6	9.0	0.4	2,691	3.7	0.40	2.4	3.7	5.4	4.9	3.5	3.7	-	-	-1.4	0.2	-	-	-	-1.2	18
臨床	6.8	11.5	22.1	19.2	24.2	13.1	3.2	30,073	4.3	0.13	2.6	4.5	6.2	4.5	4.4	4.3	-	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	19
臨床以外	3.8	10.6	27.3	19.3	23.7	13.9	1.5	12,627	4.2	0.18	2.5	4.2	6.1	4.3	4.2	4.2	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	20
教授	7.3	11.1	22.3	16.7	26.9	12.5	3.1	14,013	4.4	0.19	2.6	4.6	6.2	4.5	4.5	4.4	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	21
准教授	11.6	12.9	15.9	27.1	16.3	10.8	5.4	6,124	4.3	0.31	2.6	4.3	6.1	5.2	4.4	4.3	-	-	-0.8	-0.1	-	-	-	-0.9	22
助教	6.3	11.4	23.3	18.3	24.1	13.3	3.1	27,649	4.3	0.14	2.5	4.4	6.2	4.6	4.4	4.3	-	-	-0.2	-0.1	-	-	-	-0.3	23
男性	8.9	10.3	21.5	26.6	21.4	9.4	1.9	5,115	4.1	0.16	2.6	4.2	5.8	4.7	4.3	4.1	-	-	-0.4	-0.2	-	-	-	-0.6	24
女性	7.6	8.7	26.0	17.0	24.1	11.9	4.7	7,672	4.4	0.23	2.6	4.5	6.2	4.9	4.5	4.4	-	-	-0.4	-0.1	-	-	-	-0.5	25
任期有	6.5	12.0	22.1	20.4	23.6	13.0	2.4	25,092	4.2	0.14	2.5	4.4	6.1	4.6	4.4	4.2	-	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.4	26
任期無																									

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q208. (意見の変更理由)大学・大学共同利用機関・公的研究機関が保有する共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)は十分だと思いますか。

前回	2023	差	
1	2	4	2 本学研究者の〇〇の〇〇〇〇〇〇機構,特に〇〇〇研究所などにおける共同利用は進展している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
2	2	4	2 大学共同利用機関が増えて,利用しやすくなりました。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
3	3	4	1 令和3年度に文部科学省のコアファシリティ構築支援プログラムに採択され,研究組織と研究環境の整備が進んだ。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
4	3	4	1 共用施設として利用できる機関が増えてきていると感じるため。(国研等現場研究者・自然科学,教授,部局長等クラス,男性)
5	2	3	1 徐々に先端的な共用施設・設備が利用できるようになってきている。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
6	2	3	1 改善の兆しが見られる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	3	1 サポート体制は改善しつつある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	2	3	1 機関を跨ぐ利用について便益が図られつつある(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
9	5	5	0 装置が年々高額になっており,一研究室での購入が難しくなっている。よって,今後一層共通機器化を推進する必要があると感じる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授,部局長等クラス,女性)
10	2	2	0 利用料金が高額すぎて,利用できない。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
11	2	2	0 農学系では,年々,牧場や農場の維持のための人や予算の確保が厳しくなっており,農業フィールドで活躍できる人材教育がしにくい環境になっていることを危惧します。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授,部局長等クラス,女性)
12	1	1	0 一部の先生の共有機材になっています。共有スペースのセキュリティや使用時間制限が厳しすぎて,せっかくあるのに使えません。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授,部局長等クラス,女性)
13	2	2	0 どの大学もそれなりの活動はしていると思うが,あまり実質的・実用的でないものも多いと感じる。(国研等現場研究者・自然科学,教授,部局長等クラス,男性)
14	4	4	0 大きな大学の共同利用のおかげで,国研にいる研究者にも恩恵がありありがたい。(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
15	5	5	0 十分。(重点プログラム研究者,准教授,主任研究員クラス,男性)
16	1	1	0 利用料金が高い!(人文・社会科学系研究者,准教授,主任研究員クラス,女性)
17	2	2	0 どこにどのような設備があるのかといった情報も不十分(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
18	6	6	0 より総合的な観点から大学等の共同利用を推進するために,共同利用委員会に共同利用運営会議を置き,コミュニティから選挙で選ばれた委員による共同利用の不断の改善が行われるよう改革を進めている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
19	2	2	0 知財に対する扱いで出願費用の負担を企業がやっている点に配慮がない大学がある。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
20	4	4	0 大きく改善されてきている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
21	3	2	-1 共用のための人材(技術補佐員など)確保も計画的に行わなければ,共用の推進は難しいと思う。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授,部局長等クラス,男性)
22	2	1	-1 ネットワーク,管理,受入の全てが研究者本人に任されている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授,主任研究員クラス,女性)
23	2	1	-1 サポート体制が充実しない限り,一部の研究者しか利用できない体制に変わりはない。施設の機器を利用するのに習熟していなくても,実験や研究遂行ができる体制が整わないと新しい研究が始められない。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授,部局長等クラス,男性)
24	4	3	-1 国立大学の施設で,その大学に所属する研究者や学生が参加する研究集会等でも,学内向けでない限り比較的高額な利用料金とられているのは,利用のしにくさにつながっている場合があると感じるため。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授,主任研究員クラス,女性)
25	4	3	-1 物価上昇のためということはあるが,共通機器使用料の値上げなど,「共通機器」を使用しづらくなってきている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,助教,研究員クラス,女性)
26	4	3	-1 利用料金の値上げがあった(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授,主任研究員クラス,女性)
27	3	2	-1 事務を担当する人員が不足している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教,研究員クラス,男性)
28	2	1	-1 非常に不満があります。他大学(共同利用機関)を利用したくても高額な資金を請求されるなど,共同利用機関の意味を感じません。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
29	5	4	-1 当方は大学共同利用機関であり,利用しやすさを考えて活動しているが,十分に認知されていないので,現在広報に力を入れている。広報が不十分と考え変更した。(国研等現場研究者・自然科学,教授,部局長等クラス,男性)
30	2	1	-1 機器が導入されてもそれをサポートする人員がいない(重点プログラム研究者,助教,研究員クラス,男性)
31	5	4	-1 今後,学外からのリモートによる利用等のより進んだ利用方式を採用し,利便性を図るべきことから,前回評価を変更する。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
32	4	2	-2 どこにならがあるかの情報が不十分。オペレーターの設定も必要。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授,主任研究員クラス,男性)
33	5	3	-2 夜間の測定の手続きが面倒(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,助教,研究員クラス,男性)

34	5	3	-2	物価高騰に伴い、共同研究施設の利用料金も上昇している。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
35	5	3	-2	中型設備が導入されても維持費が配分されないため、利用者に維持費の分担をお願いする時代になり、昔のように予算を持たない若い人の発想を活かす場がどんどん減少している。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
36	4	2	-2	先端機器になるほど、機械操作の経験が必要不可欠であり、一般的な機器でも経験が必要となるため、利用のハードルを下げるためには利用者のスキルアップも必要と思われる。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
37	5	2	-3	共同利用機器を運用する技術職員が不足(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、教授、部局長等クラス、男性)

Q209. ICT技術に基づく研究方法の変革(自動化、AIの活用、バーチャル空間の活用、データ駆動型研究等)は十分に進んでいると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化								
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準差	第1四分点	中央値	第4四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6																		
大学の自然科学研究者	6.3	16.0	32.2	22.2	17.4	4.6	1.2	32,764	3.3	0.10	2.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	1	
国研等の自然科学研究者	4.7	4.3	23.6	13.5	33.0	17.1	3.9	6,393	5.0	0.27	3.1	5.3	4.5	4.6	5.0	-	-	0.1	0.4	-	-	-	0.5	2	
重点プログラム研究者	6.2	20.8	27.4	20.5	14.7	9.3	1.2	800	3.3	0.14	1.8	3.3	3.2	3.2	3.3	-	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	3	
人文・社会科学系研究者	20.2	23.0	23.6	16.8	10.8	4.8	0.7	2,145	2.8	0.40	1.4	2.9	3.0	3.0	2.8	-	-	0.0	-0.2	-	-	-	-0.2	4	
大学マネジメント層	0.4	7.0	28.8	44.4	16.0	3.3	0.0	243	3.6	0.00	2.7	3.9	4.8	3.2	3.4	3.6	-	-	0.2	0.2	-	-	-	0.4	5
国研等マネジメント層	0.0	3.4	31.0	32.8	24.1	6.9	1.7	58	4.1	0.00	2.8	4.1	5.5	4.1	4.5	4.1	-	-	0.4	-0.4	-	-	-	0.0	6
企業全体	17.1	12.5	38.4	25.3	6.1	0.6	0.0	4,098	2.6	0.14	2.0	2.9	4.1	2.7	2.7	2.6	-	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	7
大企業	7.0	9.9	33.1	32.4	14.8	2.8	0.0	831	3.3	0.15	2.3	3.5	4.7	3.2	3.3	3.3	-	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1	8
中小企業・大学発ベンチャー	19.7	13.2	39.7	23.6	3.8	0.0	0.0	3,267	2.4	0.17	2.0	2.8	3.9	2.6	2.5	2.4	-	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.2	9
俯瞰的な視点を持つ者	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大学グループ	6.3	8.3	31.4	18.7	26.5	6.4	2.3	6,244	4.0	0.21	2.5	4.0	5.7	3.9	4.0	4.0	-	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1	11
第1グループ	7.3	13.6	29.0	26.1	17.1	6.0	0.9	8,926	3.5	0.20	2.2	3.6	5.1	3.5	3.4	3.5	-	-	-0.1	0.1	-	-	-	0.0	12
第2グループ	7.9	19.3	36.1	25.3	10.4	1.1	0.0	8,130	2.7	0.18	1.8	2.9	4.2	2.9	3.0	2.7	-	-	0.1	-0.3	-	-	-	-0.2	13
第3グループ	4.0	20.7	32.5	18.2	17.8	5.0	1.8	9,463	3.2	0.23	1.8	3.1	5.1	3.0	2.9	3.2	-	-	-0.1	0.3	-	-	-	0.2	14
第4グループ	9.2	9.2	26.4	24.1	23.0	5.4	2.8	5,050	3.9	0.24	2.5	4.0	5.6	3.5	3.7	3.9	-	-	0.2	0.2	-	-	-	0.4	15
理学	8.6	14.1	25.6	25.1	19.2	5.7	1.8	14,627	3.6	0.16	2.2	3.7	5.3	3.7	3.7	3.6	-	-	-0.1	-0.1	-	-	-	-0.1	16
工学・農学	2.7	20.9	41.9	18.3	13.3	3.0	0.0	13,086	2.7	0.16	1.8	2.8	4.3	2.8	2.6	2.7	-	-	-0.2	0.1	-	-	-	-0.1	17
保健	0.0	19.9	48.6	15.1	15.3	1.2	0.0	2,691	2.6	0.27	1.8	2.7	4.1	3.8	3.1	2.6	-	-	-0.7	-0.5	-	-	-	-1.2	18
臨床	6.9	15.7	30.8	22.8	17.6	4.9	1.3	30,073	3.3	0.11	2.1	3.3	5.1	2.5	2.5	3.3	-	-	0.0	0.8	-	-	-	0.8	19
臨床以外	5.0	10.5	31.5	29.3	18.3	4.5	1.0	12,627	3.5	0.16	2.4	3.6	5.0	3.3	3.6	3.5	-	-	0.3	-0.1	-	-	-	0.2	20
教授	7.2	20.0	31.3	19.6	16.3	4.7	0.8	14,013	3.1	0.17	1.8	3.1	4.9	3.2	3.1	3.1	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	21
准教授	7.1	18.4	35.9	13.6	18.1	4.2	2.7	6,124	3.2	0.24	1.9	3.0	5.2	3.3	3.0	3.2	-	-	-0.3	0.2	-	-	-	0.0	22
助教	6.3	15.0	32.3	22.1	18.5	4.4	1.4	27,649	3.3	0.12	2.1	3.3	5.1	3.3	3.3	3.3	-	-	0.0	0.0	-	-	-	0.0	23
男性	6.4	21.7	31.7	22.7	11.7	5.4	0.5	5,115	2.9	0.16	1.8	3.0	4.6	3.0	2.9	2.9	-	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	24
女性	7.6	13.3	40.6	19.1	18.3	0.9	0.1	7,672	3.0	0.18	2.1	3.0	4.7	2.9	2.7	3.0	-	-	-0.2	0.3	-	-	-	0.1	25
任期有	5.9	16.9	29.7	23.1	17.2	5.7	1.6	25,092	3.4	0.12	2.0	3.4	5.1	3.4	3.5	3.4	-	-	0.1	-0.1	-	-	-	0.0	26
任期無																									

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q209. (意見の変更理由)ICT技術に基づく研究方法の変革(自動化、AIの活用、バーチャル空間の活用、データ駆動型研究等)は十分に進んでいると思いますか。

前回	2023	差		
1	1	3	2	今年度から積極的な取り組みが始まった。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	3	5	2	この傾向は加速していると感じますが,それでも追いつけない危惧を持っていて,意思決定のプロセスが遅い(手間がかかる)と感じている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
3	1	3	2	生成系AIの活用に関するガイドラインを設けた上で利活用を奨励。一部の教員ではあるが,バーチャル空間の活用やデータ駆動型研究は実施。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
4	2	4	2	材料開発や薬品開発の面,ロボット化などでAI活用が進んでいることを認識した。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
5	2	3	1	機械学習の利用は増えている(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
6	1	2	1	検討はしている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
7	3	4	1	バイオインフォマティクス専任の部署ができた。しかしながら,部局内部の人に職位を与えただけなので,バイオインフォマティクスを請け負ってくれるわけでない,そのため,外からの形だけの部署となっている。結局,解析は専門の企業や外部の共同研究者に依存している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,助教、研究員クラス,女性)
8	2	3	1	適合する分野では頑張っている(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
9	2	3	1	デジタル化は,スピードは速くないが,徐々に進んでいると思う(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
10	2	3	1	大学が力を入れると言っているので,それなりに進んでると思われる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
11	3	4	1	新たにICTを利用した研究にチャレンジする教員が増えているため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
12	2	3	1	徐々に進んでいると感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
13	1	2	1	最近学内でいくつかの取り組みを知りました(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	1	2	1	DXを進めようとしている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	2	3	1	DX推進の取組が本格化している。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
16	2	3	1	研究環境の世の中の流れとして,徐々に活用が始まっていると感じるため。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
17	2	3	1	より活用するよという周知が行われている。活用はこれから。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,女性)
18	4	5	1	機械学習の利用拡大やビッグデータの活用が進みつつある。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
19	3	4	1	設備の状況により使用しやすい環境となっている(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
20	1	2	1	データ管理に関しての集約化が必須だと思うが遅れている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
21	1	2	1	研究者の意識が少し高まっているように思う。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
22	1	2	1	個人的にAIの研究者との共同研究が始まったが,他の研究室の研究では未だに見たことがない。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
23	2	3	1	化学系の先生は自動化をうまく使っている。実験装置も一部操作が自動化された。全部は費用的に難しい。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
24	4	5	1	AIや機械学習を活用する研究DX推進活動が頻繁に行われている。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
25	1	2	1	ICT技術を積極的に活用することがよいとも考えていない。危険性もあるので,慎重であってもよいと考えている。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
26	2	3	1	AIコンソーシアムのプラットフォームでの育成等を通じて,特に若手研究者の中でICT技術に詳しい研究者も増えて来ている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	2	3	1	徐々に進み始めている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
28	1	2	1	「○○○○○○○○○○センター」と称する組織を立ち上げ,当該方向性の研究が緒についている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	2	3	1	新技術を導入しつつある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
30	2	3	1	一部の学類で,VR教材等を活用している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
31	4	5	1	○○○○○○○○○○○○○○○○○○センターを中心にAI及びデータ駆動型の研究を推進していますが,令和5年10月には,○○○○研究センターを設立し,各分野を越境するデータ科学研究を推し進める環境を整え,今後のさらなる研究方法の変革に期待できます。またChat-GPTに関しても,個人情報保護が実現できるサービスを導入し,業務利用を積極的に行っています。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
32	2	3	1	一部の分野では進んでいるが,まだ活用できていない分野が多い。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
33	2	3	1	徐々に進みつつある(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
34	2	3	1	前回調査に比べて,認識は高まっており,成果の少しずつ出ている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)

35	2	3	1	いくつかの分野ではこれらの研究が進んでいるが、全体で活用が進んでいるわけではない。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
36	2	3	1	全体として十分とは言えないが、AIの活用、データ駆動型研究等が徐々に浸透してきていると感じる(大企業の代表等、教授、部局長等クラス、男性)
37	1	2	1	ChatGPTなど生成AIについては論文の添削に活用されているように思われます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
38	2	2	0	やりかけているが、複雑さを助長しているように感じる(大学現場研究者・自然科学、第1G、農学、准教授、主任研究員クラス、女性)
39	1	1	0	そもそもデジタル化に対応するのは個人的な営みでしかなく、組織として対応しようという動きがない。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、男性)
40	1	1	0	メール関係のインシデントがあったり、外部からのVPNなどでの計算機利用に制限が出たりと、非常に問題が出てきている。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
41	1	1	0	全く進まない、なぜ進めないのかわからない(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
42	1	1	0	専門家の不在を感じる。(重点プログラム研究者、助教、研究員クラス、男性)
43	4	4	0	更によくするための道半ばです。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
44	5	5	0	評価点は同じだが、AI、データ駆動への移行が確実に進んでいる。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
45	1	1	0	独自のマシンを整備する資金はない一方、クラウド利用の資金も足りない(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
46	3	3	0	過度期においては逆に業務が増えるケースあり。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
47	5	4	-1	研究室内では大きく進めています。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
48	2	1	-1	ICTの専門人材との接点がなく、全く進んでいない(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、教授、部局長等クラス、女性)
49	2	1	-1	コロナ禍を機に、バーチャル技術を活用した新たな教育に取り組み、マスメディアでも大きく取り上げられたが、その翌年からその授業の教育予算を大幅に削減されてしまい、十分に進めることができなくなってしまった。(大学現場研究者・自然科学、第4G、保健、助教、研究員クラス、男性)
50	5	4	-1	実際にAI開発などもやり始めてみると、支援体制の不備が目につくようになってきた。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
51	2	1	-1	情報セキュリティ強化時に現場研究者の活動を阻害するような形態のプラットフォームが構築され、情報データの提供と活用の両面において研究基盤は明確に悪化した。その後3年が経過するが、再三の要望にもかかわらず「文科省の了承が得られない」との理由をもって利用者目線での改善を講じる努力が実質的に放棄され続けている。セキュリティ強化がそのままICT技術の活用のしにくさに直結している現況は、改善すべき。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
52	3	2	-1	AIの活用が進捗に追いついていない(人文・社会科学系研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
53	4	3	-1	AIの活用やバーチャル空間の活用については、十分とは言えない。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
54	3	2	-1	自動化などを徐々に進めている段階である。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
55	3	2	-1	時代の変化に対して、学内の対応が追いついていない状況である。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
56	4	3	-1	法人外の取り巻く環境の進展が著しい(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
57	3	2	-1	海外勢の進化スピードに対し遅れている。(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
58	3	2	-1	技術革新や環境変化に追隨できていない(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
59	2	1	-1	官、民にも責任はあるが、遅れている。(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
60	3	2	-1	ICT技術の進化は年々加速しているが、研究方法に限らず全体的に日本の変革は遅れが目立ってきていると感じる。(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
61	4	3	-1	AI活用は企業側の方が積極的に導入が進んでいる印象を受ける。(大企業の代表等、教授、部局長等クラス、男性)
62	2	1	-1	周辺国の状況を見ると、日本は現状維持レベル。特にAIと画像認識に関する技術はおもちゃ並。○大(私は週一で○大で研究員として従事してる)ですらこれなので、他所はもっとひどいと思う。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
63	3	1	-2	組織改組によって、研究資金が欠乏している。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、准教授、主任研究員クラス、男性)
64	4	2	-2	他の研究室では盛んにおこなわれているようである。(大学現場研究者・自然科学、第1G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
65	4	2	-2	他に比べて遅れている。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
66	4	2	-2	社会全体の急速な変革に比べると、十分に進んでいるとは言えなくなった気がします。(国研等現場研究者・自然科学、助教、研究員クラス、女性)
67	4	2	-2	BIM (Building Information Modelling)の活用を推進するための研究体制に課題が顕在化しているため。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
68	5	2	-3	生成AIの出現で制限事項が多い印象がある。(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、助教、研究員クラス、男性)

Q210. (意見の変更理由)研究交流や教育等におけるリモート化は十分に活用されていると思いますか。

前回	2023	差	
1	2	5	3 遺伝子組換え実験講習会などはリモートで受講できるようになった。また、共通機器の使い方も録画ビデオで学習できる体制が整っている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,助教、研究員クラス,女性)
2	1	4	3 コロナ禍においてリモート化が飛躍的に進んだため。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
3	3	6	3 授業もリモート・対面の併用など自由度が増したこともあり、大学の整備(WiFiなど)も進んでいるので、申し分ない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	3	6	3 リモート化が広まってきた。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
5	1	4	3 教育におけるリモート化はコロナ禍で活用が進んだ。研究交流についても、オンラインミーティングが活用されている。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
6	2	5	3 子供が大学で過ごしている限りにおいては、リモート化は進んでいた印象。ただし、単位の融通等は海外に比べて遅れているのではないかと。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
7	3	6	3 悪い意味で「十分」シリアルインターフェース(リモート)では、パラレルインターフェース(対面)のような偶発的なひらめきが起こらない。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
8	3	5	2 状況に応じて活用されていると思います。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	3	5	2 対面・リモートそれぞれの良さを認識して利用。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
10	3	5	2 コロナ禍での感染防止の観点からオンライン化・リモート化が整備され、日常的に利用されるようになった。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
11	2	4	2 コロナによってリモート化が推進されてきたと思う。その結果、不要な会議も減ってはいたが、最近また増えてきた。リモート化の圧倒的なメリットとしては、遠方(海外)との議論も簡単に顔を見ながらできるという点が大きい。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
12	4	6	2 リモートでの会議や講義などがかなり定着した。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,女性)
13	3	5	2 リモート化が会議等では定着したため。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
14	1	3	2 コロナ対応によりオンラインツールの利用実績が増え、成熟化された。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	3	5	2 コロナ禍の影響もあり、Web会議なども全教員が利用できるようになっている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	4	5	1 入試もオンライン化するなど進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
17	4	5	1 コロナが落ち着いてもリモートが活用されている(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
18	4	5	1 学際的な研究交流は行われており、現地に赴かなくても参加できる仕組みが整えられており、大学院学生も参加しやすい工夫がされている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
19	3	4	1 コロナ以降も柔軟にオンライン対応が進んだ(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
20	2	3	1 研修などについては、リモート化が進みました。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
21	2	3	1 新型コロナ下培ったものが生きてきた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
22	4	5	1 いろいろなことに対して、リモート化に対してかなり障壁が下がっていると感じる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
23	5	6	1 臨機応変に対応できているつもり。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
24	3	4	1 コロナを経験してリモート化の活用が進んでいる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
25	2	3	1 十分とは言えないが、ネットワーク環境が増強されリモート化は進んできている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
26	3	4	1 Zoomなどによる遠隔会議が使われるようになったため(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	4	5	1 コロナ禍後に様々な手法が活用されるようになった。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
28	3	4	1 コロナ禍を経て、機関全体でのリモート化が進んだため(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	4	5	1 コロナのため、リモート会議の頻度が高まった。現在でもリモート化は活用されている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
30	2	3	1 zoom等toolの利用が浸透してきたため。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
31	4	5	1 コロナ以後、リモートの活用は進んでいる。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
32	4	5	1 ネット会議の活用が進み、所内のネット環境の改善にも着手されてきたため。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
33	5	6	1 ハード、ソフト面の改革を進めて、海外との共同研究でリモート実験を実施するなど実績を上げた。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
34	2	3	1 コロナ禍を経て、進展した(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
35	3	4	1 コロナの影響により、リモートについての壁はかなり低くなったように感じる。全てではないが、リモート化を推進することで効率的な活動に繋がっていくことが今後も必要である。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)

36	5	6	1	対面でイベントをおこなう場合であっても、オンラインを併用したハイブリッド開催が一般的になってきたことや、録画の限定公開などがさらに進んだと考えています。(国研等マネジメント層,その他,男性)
37	3	4	1	コロナパンデミックにより急速に進歩した(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
38	4	5	1	新型コロナウイルス感染症により,以前よりは研究交流にリモートを使用する頻度が増したと感じる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
39	5	6	1	コロナによる変容が十分に浸透した。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
40	3	4	1	コロナウイルス対策でのWeb活用に伴い昨年よりは向上したと考える(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
41	4	5	1	コロナ禍を通して確実に利用頻度は増えている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
42	3	4	1	コロナ禍でオンライン化は進んだと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
43	4	4	0	活用されているけど,対面がいいに決まっている。リモートはサボる人を容認するため,反対。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
44	3	3	0	コロナ禍でリモート化は進んだかに見えたが,学会などを含む多くの研究交流は,最近是对面会場のみに戻っていることが多く,地方からだに参加に二の足を踏むことも多い。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
45	3	3	0	ミーティング等は対面で実施することが多いです。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,助教、研究員クラス,女性)
46	2	2	0	大学院授業などはもっとリモートを活用すべきである。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
47	5	5	0	十分。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
48	4	4	0	世の中の変化のほうが早く,大学や公的研究機関はついていけないのではないかと。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
49	4	3	-1	新型コロナウイルス感染症が第5類に移行して以降,ほぼ完全に対面に戻ったため(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,助教、研究員クラス,女性)
50	5	4	-1	WEB会議などは減ってきている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
51	4	3	-1	ロックダウン終了に伴いほぼ対面に戻った。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
52	3	2	-1	根拠もなく教育会議には対面で出席するように求められる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
53	4	3	-1	新型コロナの際にリモート化が進んだが,コロナが下火になって元に戻った感がある(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
54	5	4	-1	コロナ禍が収束し,講義は対面が基本に戻った。遠隔講義 + TA活用による反転授業を考えてもよいと思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
55	5	4	-1	ポストコロナでリモート対応が少なくなったように感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
56	5	4	-1	コロナ対応が平常化され,同時にリモート化のサポートはやや縮小した(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
57	4	3	-1	コロナ禍が過ぎ,全てが元に戻った。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
58	5	4	-1	新型コロナウイルスへの対応が収まってきたためか,一部でリモート化の状況が後戻りしつつある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
59	5	4	-1	コロナが明けてオンライン開催に戻ると,その良さも再認識するようになり,逆にリモートにはもっと工夫が必要だと感じ始めた。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
60	5	4	-1	コロナ禍ではリモート化を行っていたが,更なるリモート化にセキュリティポリシーとの相反により進みにくい部分が見えてきたため変更した。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
61	5	4	-1	コロナ禍で一気にリモート化対応が進んだが,最近では元に戻りつつある。リモートでない方が有効な場面もあるが,授業はハイブリッドでの柔軟性があるとよいと思う。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
62	5	4	-1	コロナ禍が落ち着いて,現場勤務・現地開催(集会等)に回帰している。リモート化は実現しているが,活用の程度は下がった。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
63	4	3	-1	ポストコロナにおいて,オンライン化の流れは途絶えた(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
64	3	2	-1	コロナ禍で一時期はリモート化が加速したが,その後は結局元に戻ってしまったため,現状の技術的に可能なレベルと比較すると,活用が十分でないと思うから。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
65	4	3	-1	コロナ禍よりはリモート化が減少した(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
66	5	4	-1	ポストコロナで対面形式に戻る動きが見られるため。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
67	4	3	-1	コロナ禍でオンライン化が進んだものの,コロナ禍が明けて以前の状況に戻ってしまうケースが散見される(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
68	3	2	-1	コロナでだいぶ進んだ(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
69	5	4	-1	出向中のメンバから,出勤が前提であると聞いている。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
70	2	1	-1	コロナが5類になってから出張したがりの先生が増えましたね。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
71	3	2	-1	実績の広報が少なすぎる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
72	3	2	-1	コロナ禍が終わり,オンラインでの交流が中止された。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授、主任研究員クラス,女性)
73	4	2	-2	コロナ後に元に戻ってしまいました。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
74	5	3	-2	コロナが沈静化して,機会が減ったため。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)

75	5	3	-2	コロナ禍でリモート化は進んだが、現在は一部リモートが残っているものの、多くは対面に戻った感はある。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
76	4	2	-2	外部講師を招いた学内セミナー等がほとんどない(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
77	6	4	-2	教育に関しては、ほぼ対面に戻った(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
78	4	2	-2	コロナ後、ほぼ全てが元に戻ってしまった(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
79	3	1	-2	コロナ禍が終わり、良くも悪くもほとんどの会議が対面で実施されるようになったため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
80	5	3	-2	研究活動では継続してリモート環境が活用されているが、教育では対面環境が重視されリモート環境を活用できる場が減った(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
81	4	2	-2	コロナが5類に変わり、一時的にすすんだリモート化が元に戻った印象です。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
82	4	2	-2	新型コロナが落ち着いてからはリモート学習は減っている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
83	5	3	-2	コロナ感染症の収束に合わせて、大学でのオンライン授業や学会でのオンラインミーティングなども収束してしまった。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)
84	5	3	-2	新型コロナのために一旦進んだリモート化が元に戻ってきているため。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
85	5	3	-2	コロナ時に活用が活発化されていたが、コロナの5類移行後、テレワークの利用日数に制限ができるなど、リモート化を阻害する方向になりつつある。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
86	5	3	-2	コロナ前に逆戻りしており、対面が増えている(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
87	6	4	-2	体調不良者がいる場合はオンライン会議になるなどの対応はすく良い、一方で、外部からのVPNなどでの計算機利用に制限が出たりと、非常に問題が出てきている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
88	3	1	-2	職場に登庁して仕事をする前提でのセキュリティ強化が行われたため。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
89	6	4	-2	大規模データの保存・共有ができる状況にはなく、通信面でも制約があるため、現状としては課題が多い。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
90	3	1	-2	コロナの5類移行により、リモート化が後退している。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,女性)
91	4	2	-2	コロナ禍より後退した(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
92	6	4	-2	コロナ禍の時のほうがリモート化が進んでいた。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
93	6	4	-2	リモート化の後退が過度にみられる。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
94	5	3	-2	オフィススペースが狭隘で、相部屋の研究者がリモート会議に参加しにくい状況が顕在化している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
95	5	3	-2	制度は整備されているが、対面での活動を好む職員の気持ちなかなか変わらない。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
96	5	2	-3	新型コロナウイルス感染症が落ち着くとともに、以前の状況に戻ってしまった。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
97	5	2	-3	コロナ終了とともに、リモート化していたものが元に戻ってしまった。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
98	5	2	-3	新所属先では、対面での教育が推奨されている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
99	6	3	-3	コロナに関する制限が緩和され、不必要に対面を強調していると感じる。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
100	5	2	-3	去年までは進んでいたが、全て衰退した。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
101	6	2	-4	コロナ期間中は活用されていた。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
102	6	2	-4	コロナ禍がすぎたせいで、せっかくオンラインで行っていた業務も対面で行うよう指示されている。リモートワークについても様々な制限が加えられ、実質的に行うことが難しい状況である。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
103	5	1	-4	まったく交流がない。他大学の同期がうらやましい。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
104	6	1	-5	コロナ禍後は整備経費が削減や、活用の推奨が低下された印象がある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,助教、研究員クラス,男性)

Q211. 公的研究資金を用いた研究データ・研究成果を公開・共有するための取組※は十分に行われていると思いますか。

集計グループ	2023年度調査											各年の指数					指数の変化							
	分らない	6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数の標準差	中央値	第4四分点	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6																	
		3.9	3.0	23.0	29.2	17.5	4.5																	
大学の自然科学研究者	3.9	2.6	12.3	30.0	29.2	17.5	4.5	32,764	5.2	0.10	3.8	5.2	5.2	5.2	5.2	-	0.1	-0.1	-	-	-	0.0	1	
国等の自然科学研究者	6.0	3.5	11.8	23.7	23.8	24.9	6.2	6,393	5.6	0.27	3.9	5.6	5.6	5.6	5.6	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1	2	
重点プログラム研究者	5.4	10.0	18.5	30.5	19.7	13.9	1.9	800	4.3	0.13	2.9	4.4	4.8	4.3	4.3	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-0.5	3	
人文・社会科学系研究者	1.8	1.7	14.8	22.9	34.2	18.1	6.6	2,145	5.5	0.30	3.9	5.5	5.5	5.5	5.5	-	0.2	0.0	-	-	-	0.2	4	
大学マネジメント層	1.6	2.1	32.1	35.4	22.2	6.2	0.4	243	4.0	0.00	2.8	4.0	4.0	4.0	4.0	-	0.1	0.0	-	-	-	0.1	5	
国研等マネジメント層	0.0	3.4	17.2	25.9	29.3	19.0	5.2	58	5.2	0.00	3.6	5.2	5.1	5.4	5.2	-	0.3	-0.2	-	-	-	0.1	6	
企業全体	16.2	9.7	28.8	28.4	14.3	2.1	0.5	4,098	3.3	0.18	2.3	3.5	3.3	3.3	3.3	-	-0.3	-0.2	-	-	-	-0.5	7	
大企業	9.9	4.9	24.6	34.5	20.4	5.6	0.0	831	3.9	0.16	2.9	4.1	3.9	4.1	3.9	-	-0.2	-0.2	-	-	-	-0.4	8	
中小企業・大学発ベンチャー	17.9	10.9	29.9	26.9	12.7	1.2	0.7	3,267	3.2	0.22	2.2	3.4	3.2	3.2	3.2	-	-0.4	-0.1	-	-	-	-0.5	9	
俯瞰的な視点を持つ者	3.5	7.7	27.5	35.9	17.6	7.0	0.7	934	3.8	0.17	2.7	3.9	3.7	3.8	3.8	-	0.0	0.1	-	-	-	0.1	10	
大学グループ	3.0	4.0	9.6	27.6	32.9	15.7	7.3	6,244	5.4	0.22	4.0	5.4	5.5	5.4	5.4	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	11	
第1グループ	6.8	1.1	15.8	24.3	27.9	17.5	6.6	8,926	5.4	0.22	3.8	5.3	5.4	5.4	5.4	-	0.0	0.0	-	-	-	0.0	12	
第2グループ	1.7	3.9	12.9	38.8	24.8	16.6	1.3	8,130	4.8	0.20	3.7	4.7	4.9	4.8	4.8	-	-0.1	0.0	-	-	-	-0.1	13	
第3グループ	3.6	2.0	10.4	29.4	31.7	19.4	3.5	9,463	5.4	0.19	4.0	5.3	5.2	5.5	5.4	-	0.3	-0.1	-	-	-	0.2	14	
第4グループ	7.0	3.5	6.3	23.4	35.7	17.9	6.2	5,050	5.6	0.22	4.3	5.6	6.7	5.5	5.6	-	0.2	-0.1	-	-	-	-0.1	15	
理学	3.9	2.3	14.2	28.5	26.2	19.3	5.5	14,627	5.3	0.16	3.8	5.2	6.7	5.4	5.3	-	0.0	-0.1	-	-	-	-0.1	16	
工学・農学	2.6	2.7	12.6	34.2	30.0	15.3	2.7	13,086	5.0	0.16	3.8	5.0	6.3	5.0	5.0	-	0.1	-0.1	-	-	-	0.0	17	
保健	2.4	1.0	8.6	42.9	33.2	7.1	4.9	2,691	5.1	0.29	3.9	4.9	6.0	5.9	5.2	5.1	-	-0.7	-0.1	-	-	-0.8	18	
臨床	4.0	2.8	12.7	28.8	28.8	18.4	4.5	30,073	5.3	0.10	3.8	5.2	6.6	4.8	5.0	5.3	-	0.2	0.3	-	-	0.5	19	
臨床以外	3.0	0.9	12.6	31.9	27.7	21.0	2.8	12,627	5.3	0.15	3.9	5.2	6.6	5.2	5.4	5.3	-	0.2	-0.1	-	-	0.1	20	
教授	3.7	3.6	13.1	29.4	30.4	16.2	3.7	14,013	5.1	0.15	3.8	5.1	6.4	5.1	5.2	5.1	-	0.1	-0.1	-	-	0.0	21	
准教授	6.0	3.9	10.2	27.4	29.4	13.2	10.0	6,124	5.4	0.29	3.9	5.3	6.6	5.5	5.4	5.4	-	-0.1	0.0	-	-	-0.1	22	
助教	3.5	2.1	12.2	29.3	29.7	18.6	4.7	27,649	5.3	0.12	3.9	5.3	6.6	5.2	5.3	5.3	-	0.1	0.0	-	-	0.1	23	
男性	5.7	5.4	13.2	34.0	26.6	11.6	3.6	5,115	4.8	0.14	3.6	4.7	6.1	5.3	4.8	4.8	-	-0.2	-0.3	-	-	-0.5	24	
女性	4.6	5.2	12.5	31.7	27.2	15.9	2.8	7,672	4.9	0.18	3.7	4.9	6.4	5.3	5.0	4.9	-	-0.3	-0.1	-	-	-0.4	25	
任期有	3.6	1.8	12.3	29.5	29.8	18.0	5.0	25,092	5.3	0.11	3.9	5.3	6.6	5.2	5.4	5.3	-	0.2	-0.1	-	-	0.1	26	
任期無																								

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)～6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q211. (意見の変更理由)公的研究資金を用いた研究データ・研究成果を公開・共有するための取組
※は十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	1	3	2 機関におけるデータポリシーの策定が終了し、現在データリポジトリの構築を行っている。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
2	1	3	2 データポリシーの策定、データリポジトリの構築等の最低限の枠組みを整備中です。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
3	3	4	1 博士課程における成果公開支援、博士論文や投稿論文のデータリポジトリが行われている。(大学現場研究者・自然科学、第1G、工学、准教授、主任研究員クラス、女性)
4	4	5	1 データポリシーの策定が現在進められている。(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、教授、部局長等クラス、男性)
5	3	4	1 多くの関係者がデータ共有の必要性を感じており、ルールへの策定に向けた試みが行われつつはある。(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、教授、部局長等クラス、女性)
6	3	4	1 Research mapの取り組みは順調に進んでいると感じる。(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、准教授、主任研究員クラス、男性)
7	4	5	1 努力をしようという機運はある(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、教授、部局長等クラス、男性)
8	1	2	1 学会として取組始めたように思います(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、教授、部局長等クラス、女性)
9	2	3	1 まだ活用されていないが、最近、所属学会がデータリポジトリを構築しようとしている。(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、助教、研究員クラス、女性)
10	4	5	1 データ管理の制度が浸透してきている。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、女性)
11	4	5	1 データポリシーの必要性が認識されつつあり、作成が少しずつ進んでいる。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
12	2	3	1 少しずつデータや成果の公開は進められている(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
13	4	5	1 Open Accessが増えた。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
14	2	3	1 研究データマネジメントポリシーを制定したため(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
15	2	3	1 ○○○大学研究データ管理・公開ポリシーを今年度策定、公開しました。(大学マネジメント層、学長等クラス、女性)
16	2	3	1 各研究機関・大学等におけるデータポリシーの策定やGakuNin RDMの整備などが進んできたため(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
17	1	2	1 データポリシーの策定、データリポジトリの構築などは少しずつ進んでいると思うため。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
18	2	3	1 今年度データポリシーを策定し、データ・成果の公開に関する全学的取り組みがスタートした。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、女性)
19	3	4	1 前回調査時より取組が進んでいる。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
20	4	5	1 リポジトリの運用を今年の5月に開始した。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
21	2	3	1 だいぶデータ公開の取り組みは普及してきたと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
22	1	2	1 機関リポジトリの整備が、○○○【大学共同利用機関法人】のシステムにより共通的に各機関において進められてきていることは評価できる。しかしながら、研究データ・研究成果が、公表後かなり時間が経って登録されていたり、過去のものの登録がゆっくり進められている等、整備の進展が遅い印象がある。取組を進展させるためには、現状の背景理由を調査し(例えば、リポジトリへの登録が義務ではない、メタデータが定められていない、専任担当者が機関におらず研究者が片手間で対応している等)、対策を講じる必要があるのではないかと。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)
23	2	3	1 この点は少し前進が見られる(俯瞰的な視点を持つ者、助教、研究員クラス、男性)
24	1	1	0 公開することはできますが、公開する場所がたくさんあり、その事務作業が大変すぎます(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、准教授、主任研究員クラス、女性)
25	4	4	0 現在ポリシー策定を開始(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
26	2	2	0 機関のリポジトリを拡充してほしい。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、男性)
27	2	2	0 前回から特に進展は無いが、「公的研究資金を用いた研究データ・研究成果を公開・共有するべき」と言われる一方、「公的研究資金を用いた研究データ・研究成果を特許や有料データベースとして収益化し、海外や民間企業から利用されるようにして国益として還元するべき」とも言われて、なかなか難しいと感じている。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
28	4	4	0 ○○大学学術情報リポジトリ(○○○○○○○)があるが、使ったことはない。登録したことはある。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
29	6	6	0 中核実験装置LHDの25年間にわたるデータの全面的オープン化(リンク化)を進めている。最近2年間については実験直後に100%オープン化している。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
30	3	3	0 大学で開催するワークショップ等は、適宜行われていると思います。(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
31	2	2	0 オープンデータなどオープンサイエンス対応のための経営層の理解が不十分で、基盤的予算が足りていない。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
32	1	1	0 報告書などがウェブサイト等で公開されているが、一般社会に対する発信力は全く不十分。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
33	2	2	0 データポリシー等はできているものの遵守されていない。公開支援のための基盤経費やシステムも不十分。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)

34	3	3	0	公開がされてても、効果はないのでは。論文に勝るものを開発しないといけない(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
35	2	1	-1	論文雑誌のオープンアクセス化に早急に対処する必要がある。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、教授、部局長等クラス、女性)
36	6	5	-1	大量データのレポジトリ先が欲しい(大学現場研究者・自然科学、第2G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
37	6	5	-1	不十分とは思わないが、改めて考えると、データレポジトリの構築について、もう少し支援があるとよいと感じたため。(大学現場研究者・自然科学、第2G、理学、准教授、主任研究員クラス、女性)
38	2	1	-1	大学でレポジトリを作ると昨年計画されましたが、できたレポジトリがまったく役に立たない物でした。(大学現場研究者・自然科学、第2G、理学、准教授、主任研究員クラス、女性)
39	5	4	-1	個別案件になりますが、NDBオープンデータ分析の使用に科研費を使える様になると有り難いです。(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、教授、部局長等クラス、女性)
40	4	3	-1	具体的な取り組みになかなかつながっていない(大学現場研究者・自然科学、第3G、保健、准教授、主任研究員クラス、男性)
41	2	1	-1	文科省からの指示がそもそも不明確で、質問書を送ってもなかなか返事が来ない。明らかな準備不足。(国研等現場研究者・自然科学、教授、部局長等クラス、男性)
42	2	1	-1	機関でのデータレポジトリも用意されていますが、フリーの公的なものを使用しています。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
43	4	3	-1	MDX等のシステムはあるが、大規模データを使用する場合には高価になってしまうため、予算がない限り、効率的な研究展開は困難なように思われる。特に、フィールド科学系では携帯電話の通信状況も整備されていない地域もあるため、技術開発と普及、低価格化が進むことが望ましい。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
44	3	2	-1	公開のためには輸出管理規制の議論が不可欠である。経済安保政策の議論が始まっているが、国としてのOpen/Closed戦略の議論が遅々として進まないのがマイナスとした。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
45	5	4	-1	ある程度、整備されていると思っていたが、理解が少し進んだことにより、まだ整備しきれていない部分もあるということがわかってきたため。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
46	5	4	-1	オープンデータについては、欧米に比べると、遅れていると感じる。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
47	3	2	-1	データレポジトリの構築・活用、データ・成果の公開支援についてシステム整備が遅れており、早急の改善を行う。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
48	6	5	-1	大学において、依然としてデータポリシーが未整備(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
49	5	4	-1	未だ足りない部分がある。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
50	3	2	-1	データは当該機関だけのものではなく、大学等の学術機関の取組みがそれぞれバラバラでは困るので、国の方で統一した制度化をお願いしたい。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
51	3	2	-1	一部の大学では積極的に推進しつつあり、産官学での議論、枠組みも始まった(大企業の代表等、学長等クラス、男性)
52	4	3	-1	情報収集、アクセスの方法がやや煩雑である。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
53	4	3	-1	すこしやりすぎで企業との共同研究が難しくなっている(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
54	3	1	-2	既存の学術雑誌のOA化とAPCの高騰で、投稿できる雑誌の選択が狭まっていると感じる。グリーンOAも活用しているが、ワールドOA雑誌の迅速さ普及の速さを見ると効果は少ないように思う。(大学現場研究者・自然科学、第2G、保健、准教授、主任研究員クラス、女性)
55	6	3	-3	自分的にはデータをデポジットするように心がけているが、研究室によっては教授の意向でデータレポジトリに登録しないですむ論文に投稿するようにしているラボもある。(大学現場研究者・自然科学、第1G、保健、助教、研究員クラス、女性)
56	5	2	-3	オープンアクセス代金が高くて個人研究者の予算では支払えないことがある。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
57	6	1	-5	Researchmapを徹底的に使い共有する文化が全然できていない。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、教授、部局長等クラス、男性)

Q212. (意見の変更理由)公開・共有された研究データ・研究成果の利活用は十分に行われていると思いますか。

前回	2023	差	
1	1	3	2 様々な人と話す機会が増え、意外と状況は悪くないと感じた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	1	3	2 最近、研究成果の社会実装の報告を聞くようになり、現状が変わりそうな雰囲気を感じています。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
3	3	5	2 所属部署の役割の違い(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
4	2	3	1 冊子の一般配布やシンポジウムの開催などが進められている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	4	5	1 さまざまな形で公開データを利用した研究が増加している。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
6	2	3	1 所属学会でのデータ公開が少し増えた(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
7	1	2	1 学会として取組始めたように思います(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
8	3	4	1 学会でも公開データを活用した研究が増えている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	3	4	1 学内から著名な科学論文誌に掲載された文献は自由に閲覧できる。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
10	1	2	1 Researchmapや科研費データベースなどの研究者の活動データベースの利用は広がっていると思うため(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
11	1	2	1 ○○○【大学共同利用機関法人】を中心としたプロジェクトなどで、様々な分野での取り組みが始まっている。財政的な支援およびサポート人材の確保が必要。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
12	1	2	1 ややよくなりつつある。まだ不十分。(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,男性)
13	4	4	0 オープンデータの整備・公開は進んでいる。研究レベルでの利用も進みつつある。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
14	5	5	0 十分に。たまに企業や高校生から問い合わせがくる。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	3	3	0 自分が使っていない(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
16	2	2	0 データ共有などのインセンティブ整備が足りない。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
17	2	2	0 データ公開システムの整備は少しずつ進んでいるが、共有できるデータの標準化が遅れている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
18	1	1	0 データの利活用はまだまだと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
19	3	3	0 検索機能が向上しているので、改善されている印象を持ちます。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
20	4	3	-1 研究までにとどまることが多い(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
21	3	2	-1 当然のことながらアカデミックなものであっても企業が絡んだ時点でアクセス不可となる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
22	3	2	-1 学術誌が冊子からオンライン化したことにより、限定的な論文しか読まなくなったため、類似分野であるが、異なる研究報告を目にする機会が無くなってきたと感じるため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
23	5	4	-1 ある程度、整備されていると思っていたが、理解が少し進んだことにより、まだ整備しきれていない部分もあるということがわかってきたため。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
24	4	3	-1 国内では、FAIR原則に基づくオープンデータ化の取組が必ずしも浸透しているとは思えないことから、前回評価を変更する。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
25	3	2	-1 オープンサイエンスの実現にはまだ遠い(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
26	3	2	-1 ユニバーサルに使えるデータベースなどが不足。一部はあるが、非常にアクセスし難い(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
27	4	2	-2 活用する側への刺激がもう少し必要かも。どこになが、どんな情報があるのかの宣伝？(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
28	4	2	-2 航海で得られたデータを公開するシステムが長らく止まってしまっている(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)
29	4	2	-2 最近の動向からすると、公開情報はうわべであり、活用に結びつかない(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
30	5	2	-3 研究成果(特に計算ライブラリなど)の共有整備と経費支援制度の状況は、海外との比較のもとで、十分でない新たに認識しています。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
31	6	1	-5 論文雑誌のオープンアクセス化に早急に対処する必要がある。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)

Q213. (意見の変更理由)研究成果の公表方法の多様化(データの公開、プレプリントの活用等)は十分に進んでいると思いますか。

前回	2023	差	
1	3	5	2 大学がプレスに力を入れるらしく、その整備が進みつつある。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	2	4	2 研究成果の公表方法については、多様化が進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
3	1	3	2 最近プレプリントで研究成果を見る機会が増えた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	2	3	1 論文のデータ化,ウェブ公開などが進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
5	2	3	1 プレプリントが一般的になって来た(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
6	1	2	1 現在,J-stageのセミナーなどを受講し,研究分野の編集委員会内で検討を開始しておりますが,様々な課題がありすぐには進められる状況ではないと考えています。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
7	2	3	1 プレプリントが国際的に重視されるようになりつつある。査読が形骸化したOA誌が増えている中で,プレプリントを活用し,内容の信頼性は研究者自身が判断する動きが出てきている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
8	3	4	1 研究者全体でそのような意識が増えてきた。プレプリントを活用している研究者も増えてきている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
9	2	3	1 こういったサービスは充実しつつあると感じたが,日本国内ではまだまだと感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
10	1	2	1 所属学会でのデータ公開が少し増えた(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
11	1	2	1 リポジトリの活用がなされている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
12	1	2	1 大型研究費などでデータ公開を特に推奨しているが,論文や特許取得前に出してしまうと競争相手に有利に働くことがあった。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
13	2	3	1 好むと好まざるとに関わらず,進んではいると思う。ただ良い舵取りが今こそ必要だと痛感する。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
14	4	5	1 国際論文誌の出版社も最近はおおむねプレプリントサーバーの利用を許可するようになり,プレプリントサーバーの活用が進んでいる。オープンアクセス誌は高級すぎて投稿できない研究者も多い。慣れた研究者は,タイトルなどから読みたいと思った文献がオープンアクセスではなく,所属機関でも購読してなくて読めなかった場合,タイトルを検索すればプレプリントサーバーに行き行って読む,という手順を知っているが,おそらくその手順を知らない人の方が多いので,周知する必要があると思う。せっかくプレスリリースで新聞社等が取り上げてくれても,原典のリンクが貼っていなかったり,リンク先がオープンアクセスでなくて読めないため(実はプレプリントサーバーに行きつければ読めるのに)に論文が変な解釈をされていたりする事例を見ると,もったいないと感じる。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
15	1	2	1 プレプリント(bioRxivなど)の形式での発表が増えてきた(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
16	3	4	1 進んでいるが,学術誌レベルでプレプリントが認められているかは分からない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
17	3	4	1 Jxivの活用を進めていきたい(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
18	3	4	1 多様である必要もないと考えている。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
19	2	2	0 使えるデータにするための労力を考える必要がある。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
20	6	6	0 十分。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
21	3	2	-1 生物系(実験系)の分野ではプレプリントの活用は進んでいない(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
22	3	2	-1 J-STAGEのデータ利用やDOIを利用した横断的研究調査をしたところ,論文情報はDOIがあるのに,デジタルで紐づけが弱く,特に引用文献に至ってはDOIとして管理されていない(紙面上の文字認識で管理)。DX推進を阻害する,研究成果の公表方法となっている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
23	5	4	-1 ある程度,整備されていると思っていたが,理解が少し進んだことにより,まだ整備しきれていない部分もあるということがわかってきたため。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
24	3	1	-2 論文検索の効率化のため,AI検索ツールの利用が今後ますます増えると考えられる。しかしAI検索では,プレプリントやグリーンOA論文が殆どヒットしないため,現状では登録の作業負担があるだけのように感じる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
25	4	2	-2 プレプリントの活用にはまだ課題が多いことに気づいた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
26	4	2	-2 学会により,偏りがあるためマイナスとした。また,オープンアクセスが進む海外ジャーナルに対して,採択から公開まで時間の異常な長さや,システムの遅れを感じるようになって来たため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
27	5	3	-2 国主導のプレプリントサーバーの活用が有効に進んでいるように見えないため。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
28	5	2	-3 多様化を促進するならば,多様に公表したものを論文と同列に評価する事が必要。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
29	5	2	-3 航海で得られたデータを公開するシステム自体はよいが,2-12で答えたように長らく止まっていることと,どんなデータが公開されているのか,探にくい上,過去から改良がない(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,女性)

30	6	2	-4	○大は頑張っている。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
31	6	1	-5	論文雑誌のオープンアクセス化に早急に対処する必要がある。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)

Q214. 研究環境のパートの質問に関連する内容について、ご意見をご自由にお書きください。

- 1 大学院の講義で、他キャンパスの学生にはオンライン受講を認めたいが、それも今年から禁止になった。対面だけがいいとは限らないので、柔軟な運用を認めてほしい。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
- 2 研究室を整備したり,装置を修理するための間接経費が大学の整備に重点化されているので,もう少し研究者への配分を増やすべき。運営費交付金をベースアップがないと学生の補助ができない。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
- 3 論文雑誌のオープンアクセス化に早急に対処する必要がある。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
- 4 「データ公開」の定義がわからない。低レベルでの取得データ,1次,2次処理済みデータ,実験装置応答関数の提供から出版公開結果の数値データ提供まで,様々なレベルの公開がありうる。研究手法によって考え方が全く違うと思うので,「データ公開」という言葉をさらに突き詰めて欲しい。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 5 共通機器の拡充により,研究成果の創出が強く期待される。その際,機器を管理する人材を雇用するための基盤経費が必須。ムーンショットなどの超大型競争的資金を削減して,運営費交付金を大幅に増額し,その一部を共通機器の管理者の雇用経費に充てることを強く求めたい。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 6 ものづくりの基盤となる設備の維持運営に大学が積極的に支援して取り組むべき。また,研究室単位でなくグループで維持するような動きを更に加速する必要がある(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 7 学内のデジタル環境の整備は,大学本部機構が責任をもって実施すべき事項であるが,大型の総合大学の場合は,その予算規模が膨れ上がり,実際には手付かずとなっている。一方,部局側の執行部としても,全学システムとの整合性を確保する事は必須であるので,結果的に大型大学のデータ利活用環境整備が進まない。一方,リサーチ・アドミニストレーター等の育成は極めて重要であるが,適切な人材発掘は難航している。例えば,既に助教や准教授等で在籍している教員の役割を変更する事は,当該本人達にとっては研究者としての道が絶たれた事を意味するため,人事上も複雑な問題となる。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 8 新しい研究をするためには,装置は改造したり,独自のアイデアを入れることができる「専用装置」でなければならないが,国策では「共有装置」を推奨する。そのように制限されると,他の利用者もいる観点から,その装置のスペック以上のことは何もできない。つまり,何もイノベーションに繋がらないということを理解してほしい。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 9 研究資金については,一部の研究者に集中する傾向が強すぎるように感じています。高額でなくてよいので,より多くの研究者に基盤的な研究資金をいきわたらせることが,学術研究を活性化し,新奇性の高い成果を生み出すために必要だと思います。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
- 10 所属機関が大学に変わったが,コロナ禍で大学のICT化が大きく進展したことを実感している。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 11 ここ数年で急激に研究に必要な資源,物品価格が高騰しているにもかかわらず,外部資金を含めた研究資金はほぼ一定であり,これまでと同規模の予算を獲得しても,これまでと同規模の研究活動を行うことが出来ない状況が現実起こっていると感じる。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
- 12 若手にもっと研究に従事する時間を与えるべき。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
- 13 研究資金・研究環境・雇用経費の確保と運用について,より柔軟性が上がるとよいと思います。(副業の制限緩和、共通施設運用の拡張など)(大学の自然科学研究者,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
- 14 研究機器が老朽化している。大学内での研究費ではなく,外部資金を利用しての購入では,目的用途が限定されており,使いづらい面もある。(大学の自然科学研究者,第1G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
- 15 所属する大学,部局は非常に恵まれた研究環境にあり,大変感謝しています。(大学の自然科学研究者,第1G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 16 ○○○○研究所は研究環境として恵まれているのでこのように回答した。一方で,国内全体では研究に関する資源は非常に厳しい状況にあると考えられる。研究者が,研究のこと以外で時間を使わなくて済むように,このようなサポートは可能な限り充実させてほしい(大学の自然科学研究者,第1G,保健,助教、研究員クラス,男性)
- 17 基盤的研究予算を広く薄く配分しない限り,ボトムアップは期待できない。選択と集中では決してうまく行かないことを,行政機関はもういい加減理解するべきと考える。(大学の自然科学研究者,第2G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
- 18 日本全体の研究費減少が著しい,物価高もあり現状は厳しい。高齢化,社会保障に対応するため大変なのは理解するが,少しでも未来のために,教育・研究を大切にほしい。(大学の自然科学研究者,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 19 大学なので仕方ない部分はあるが,教育や運営などの業務の比率が高く,研究に集中することが難しい。成果の評価などは,あまり意味がないので,やめた方がよいと思う。予算の獲得という形で評価されるだけで十分で,そのための時間をもたないし,質の良い研究を促進するための良いモチベーションにはならないと思う。むしろ質の悪い研究を増やす方向になっているように思う。(大学の自然科学研究者,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)

- 20 研究環境には恵まれている方だと思われるが、それでも研究に使える時間が年々減っている。教育や研究費の申請/報告書に要する時間が増えているだけでなく、何の役に立っているかわからない無駄な書類仕事に追われ、自分自身での研究はほとんどできない。学生の指導を通じてかろうじて研究ができていく状況である。(大学の自然科学研究者,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 21 リモート化は研究打ち合わせ、会議などではとても有効なツールである。一方で、教育に関しては、自己都合で欠席した講義でもオンデマンドによる補講を求める学生への対応など、対応が煩雑になったと感じる。やる気はあるが困窮している学生には対応してあげたいが、私大のように対応学生が多い場合は、個別対応にとられる時間が多すぎる。(大学の自然科学研究者,第2G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 22 大学研究室における基盤研究費は、ほぼゼロであり、外部資金が獲得できない場合、研究を諦めざるを得ない。1講座あたり(教員2-3名)の教育・研究経費が数十万円で、一体どのような研究をしるのか?しかも、研究成果は、主要な個人査定の一つとして給与に反映されている。また、先進の研究には、先進の研究計測機器が必須であるが、こういった機器の購入のための基盤研究費は、基本的にゼロであり、老朽化した機器の更新は不可能な状態である。また、教育や大学マネジメントの負担の増大は、ここ数年著しい。共用試験の公的化、教育メソッドの多様化、多様な学生への個別対応、多数の調査・集計・報告書、アンケート、申請書、学内外の会議など、キリが無い。コロナ禍が明けて気付いた本邦の低賃金と物価上昇の中で、これら殺人的に多忙な大学の業務は、昭和世代に育った教員達の、肉体と精神を削っても潰れないタフさと報酬をはるかに超えるボランティア精神で支えられているのが現状であろう。メンタルチェックで専門医への受診を勧められても、未受診で頑張っている教員は多いはずである。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 23 過去30年間の、選択と集中のポリシーに則った政策の結果、著しい研究力低下がもたらされたのではないかと、一方で、誰もこの結果の総括や責任をとっているようには見えない。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 24 業務の効率化等の推進は各大学や部局の自助努力に負うところが多いが、より効率化を要するコンパクトな大学ほどこのようなことに取り組める人材確保が難しく、より厳しい状況に陥っていると感じる。大学等研究機関の差別化、二極化が進む要因となっており、このことは我が国の研究教育能力の底上げという観点から好ましくない。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 25 ノーベル賞の受賞発表が近づくと、基礎研究に費やす公的資金の予算について、議論が再燃し、その後、予算を取り巻く環境が変化しないまま、毎年、同じような議論が繰り返されています。日本の研究力を高めるためには、基礎研究、特に、科研費の総額を増加されることが第一歩かと思えます。政府はオリンピックの誘致や開催には数兆円規模の予算を投じますが、なぜ、科研費の増額は見送られ続けるのでしょうか?現在、世界的な物価高となっており、2年前と比較して、試薬の価格が20%~30%高くなっています。このような状況にも関わらず、公的資金は物価の高騰の応じた増額がされておらず、結果として研究に使える予算が目減りしている状況です。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 26 共用設備が古くなり、時代に即していないため誰も使わない機械を管理するための場所や電気代、人件費が無駄に使われている。間接経費やオーバーヘッドなどで資金を確保し、時代に即した機器を導入する必要があると感じる。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 27 「日本の全般的な状況」について知りうる立場にありません。おそらく格差が激しく、個々の機関、研究室、研究者によって異なるだろうと想像するので「分からない」を選択しています。コンプライアンス研修や研究倫理研修などの自動化(web上でのビデオ視聴と理解度テスト)や教務関係のシステムの導入や改良は進んでいますが、全学的にはそこに予算を注ぎ込んでいる感があり、各教員の外部資金による整備以外に、研究環境のICT環境の向上は見込めない状況にあると思います。(大学の自然科学研究者,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
- 28 大学内に必要な設備がなく、外部機関へ出張等しなければならないことも多々ある。(大学の自然科学研究者,第3G,理学,助教、研究員クラス,男性)
- 29 これまでの独立した講座制の研究体制を確立している研究機関が少なくなり、多くが個人主義的な研究室・機関に移行しており、協調・協同の研究というよりも、個人の能力に依存することが多くなり、研究者の育成が益々困難となると感じます。(大学の自然科学研究者,第3G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 30 予算不足のため主要なジャーナルで読めないものが多い点が問題。文部科学省のコアファシリティ構築支援プログラムに採択され、スタッフがが増えて共通機器の管理や共同利用について大きく改善された点は高く評価できる。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
- 31 研究環境(設備,予算,時間)の悪化が我が国の科学技術が衰退している原因であることは明白である。ファカルティーデベロップメント、コンプライアンスなどの講習のため多く時間が失われる。この調査も時間を削る要因の一つである。この調査によってどのように国の政策を変更することができたのか、示してほしい。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
- 32 研究資源の情報共有の好例としてNCBIデータバンクなどがあるが、日本にはそれに該当するレベルのものが無い様に思われる。また、リタイアした研究者の情報や資源の活用も十分とは言えない。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
- 33 大学の附属センターという研究的役割が一部の上層部では理解できていないため、その他の上層部との足並みが揃っていない。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 34 私学助成金など大きなお金で機器は購入できるが、その年限りで終わってしまうため、継続して共通機器を運用できる仕組みが必要であると感じる。雑務が多いため、研究時間を確保するための取組や支援が必要であると感じる。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 35 電気代高騰などの要因により、研究関連の基盤経費が削減されている。また、電気代を節約するあまり、夏場の酷暑の中でエアコンの使用を制限される等、健康状態に影響が出るレベルの日もあった。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)

- 36 研究施設については古いものが多いため、メンテナンスや更新が必要と感じます。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,助教, 研究員クラス,女性)
- 37 研究に伴う事務作業が増えており,研究・教育への時間配分が減っていることが問題である。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授, 部局長等クラス,男性)
- 38 大学・大学共同利用機関・公的研究機関が保有する共用研究施設・設備は,かなり自助努力している。またこの回答者自身が,このような運営の立場に立ち,模索している(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授, 部局長等クラス,男性)
- 39 特に基礎研究のための研究費が国全体でかなり不足しています。一方でAMEDのような開発や応用のための研究費が増額されています。現在,日本の研究力の低下(国際順位13位)が顕著ですが,まさに基礎研究の研究費を減額したことが原因だと思えます。日本における少子化や経済の低迷のために,将来,経済効果に繋がるような研究に多くの投資をするという考えに基づく政策の結果だと思えます。しかしながら,根本的に研究成果を予測することはどんな研究でも困難であるため,経済効果に繋がると思われるような研究の中で,実際に経済効果を生み出すものは数少ないと思えます。そういう意味で,万遍なく基礎研究にも研究費を配分していく方が,研究力が増進され,結果的には大きなイノベーションを生み出す確率も増えると思えます。このような意見をぜひ,国の政策を決めている一部60代や退職された70代の教授だけではなく,現場で働いている大学の教授達の意見を幅広く集めてほしいと思えます。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授, 部局長等クラス,男性)
- 40 ジャーナル購読費の問題は深刻です。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授, 部局長等クラス,男性)
- 41 共通機器として高額機器を更新する予算とともに専門オペレーターの配置のための予算を付けてほしい。適切な使い方がわからず高額機器が有効に活用されないことが多いと感じる。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授, 部局長等クラス,女性)
- 42 己の利権にこだわり,未だに抑制性の統制をとる者もいるなかで,十分かつ安全に個の意見を表出できるような場の創出,そしてそれがフィードバックされ改善される取り組みが必要と思う場面がある。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,准教授, 主任研究員クラス, 男性)
- 43 ここしばらくの傾向として,競争的資金の獲得競争が激化している。基本的に悪いことではないと思うが,その一方で基盤的な経費が著しく減じられている。このことは,「世間受けのよい研究」「口のうまい研究者」にお金が集まりやすいという問題を生むにいたっている。例えば,「認知症は〇〇で治ります」と言った方が期待を集めやすく,「認知症は神経細胞が死んでいるので,基本的には治らないので,その前提での治療が必要」という本質的な点に触れると,受けは悪い。基礎研究,基盤研究は「裸の王様が裸であることを指摘する勇氣」が求められるわけであり,そのためには地味な研究,お金を集めにくい,一見無駄に見える研究にも経費を配分しておく必要があると強く感じる。ブレークスルーはそういったところから生まれるし,ノーベル賞でさえも発端は目先の成果を無視した地味な研究がほとんどである。基盤的経費の配分増と安定的な配分を求める(例えば,研究者1名に年間2~300万円程度:言ってみれば政治家の活動費の様なもの)(大学の自然科学研究者,第3G,保健,准教授, 主任研究員クラス,男性)
- 44 物品費の値上げが昨今著しい。また,電気代など設備維持にもお金が必要である。論文を発表する際のデータも昔よりは多く必要であり,ひとつの実験に必要なお金が多くなっている。さらに論文掲載料も年々上がっている。そんな中で,基盤経費が減り,科研費などの競争的資金の金額が変わらないのは研究を継続するうえで厳しい。また,財団などの競争的資金は主に若手を重視しているため,中堅層は資金を得にくい状況となっている。それも考えてもらえたらと思う。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,助教, 研究員クラス, 女性)
- 45 科学計算の分野において,計算ライブラリ・ソフトの開発に向けた国の支援制度が必要と考えます。現行の経費申請の体系では,基礎計算ライブラリ・ソフトの開発が適切に評価されていないと認識しています。(大学の自然科学研究者,第4G,理学,教授, 部局長等クラス,男性)
- 46 電子ジャーナルの契約が継続できなくなっている。(大学の自然科学研究者,第4G,工学,教授, 部局長等クラス,男性)
- 47 研究交流や教育は完全リモート化が必ずしも望ましいとは思わない。ただし,リモート環境の活用や併用(ハイフレックス)を,対面側の負担が大きくなりかたちで普及する必要があると思う。(大学の自然科学研究者,第4G,工学,助教, 研究員クラス,女性)
- 48 研究設備等は整っているが,教育機関であることから入学者への教育責務が大きく,また昨今の少子化と学力の低い学生を受け入れざるを得ない状況がひどくなる一方で,研究に割く時間がなくなってきている。研究が思うように進められなくなっている理由はこれに尽きる。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,教授, 部局長等クラス,男性)
- 49 電気代の上昇をはじめとして,様々な物価の上昇が研究基盤を支えるための予算を圧迫していると感じている。特にここ1~2年の電気代の上昇と円安に伴う海外製品(研究に必要な機器や試薬など)の価格上昇の影響は大きいにも関わらず,運営費交付金の大半は変わらないため,その影響は大きいと感じている。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,教授, 部局長等クラス,男性)
- 50 資材の高騰による研究活動の減退,旅費の高騰により学会等への参加の見送りが生じている。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,教授, 部局長等クラス,女性)
- 51 基盤となる研究費があまりにも少なく,意欲ある学生が実験をしたくても金銭的にできない状況である。現在は教員が自腹を切っている。オープンアクセス化が進む中で,投稿論文費用だけで年間の研究費が底をついてしまうため,論文発表もためらわれる。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,助教, 研究員クラス,男性)
- 52 プレプリントで成果発表をしたことがあるが,その意義がまだ理解できていない。論文が受理される前に公開されるのでリスクもあり,日本では学位申請くらいか。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,教授, 部局長等クラス,男性)

53 大学病院における若手と中堅の人材離れが進んでいるためか、診療・教育を行う人が少なく、実務に費やす時間が長い。また、それに貢献するほど研究時間は「自己研鑽」として時間外に行うこと(ただし時間外業務としては申告しない)が当たり前となっていて。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)

54 ICT,通信環境は、ハード面もソフト面も全学的な支援があまりなく、専門家も配属されていないため、ほとんどが教員任せになっている。全学的にスムーズな導入に至っていないように感じる。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)

55 本学部では講座制を採用しているが、人員削減による講座再編により、分野の異なるメンバーの講座がほとんどである。そのため、講座(教授)によっては、若手研究者は講座研究費を自身の研究に使うことができず、外部資金を獲得できない。若手研究者は、研究においても自身の専門分野外の研究を強いられる状況が散見される。大学では、学生の教育だけでなく次世代を担う若手研究者の育成にも取り組むべきであり、若手研究者が意欲的に次世代に繋がるような挑戦的な研究に取り組めるよう、大学設置基準(専任教員数の最低数を増やし、教授の最低数だけでなくその上限についても規定するなど)の見直しを政府主導で進めていただきたい。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)

56 円安のため、試薬、実験機器、果ては論文投稿費が高騰しており、全く資金が足りない。諸外国に比べ、内部、公的資金もあまりにも金額が乏しく、基盤研究Cが採択されたところで、機器の購入には全く不十分で、かなり古い機器を使用して実験している。最新機器を使用して、合理的かつ高速に実験をすすめる諸外国に、この状況では太刀打ちできない。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,助教、研究員クラス,女性)

57 私の分野は先端研究基盤の高度化に該当するため、競争的資金というよりは施設運転経費を用いて行なっていくことが大半です。これは全て年度予算であり、大型のシステムの研究開発に付随する機器の製作などは、年度予算で実施することが難しく、課題の1つになっています。案件に応じて、年度予算の柔軟な運用が可能になると、大型の研究開発にとって大変有効だと感じています。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)

58 所属組織間の格差が広がっているのではないかと思います。国としての統一的な取り組みが必要だと思います。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)

59 論文等の研究情報へのアクセスに関して、欧米の営利企業である出版社に支配されている状況を、これからは日本政府や我が国の非営利団体が抜本的に変える対応策(例えば、日本政府系機関主導によるメガジャーナルの創設など)を取ることが必要である。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)

60 設問の意図が分かりにくい。「あなたの所属する部局・部署における状況を踏まえ、」は必要なのか?主語を明確にした方が良いと思う。「あなたの所属する部局(あるいは研究分野)では、」のようにして欲しい。機器等、十分な研究機関があれば、不十分な大学もまたある。どちらの事を聞きたいのか、あるいは平均的(日本の研究者人口)に対しての充実度的なことを聞きたいのかわからない。(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)

61 図書予算が年々削られ閲覧できる雑誌の数が減っている。オープンアクセス化を推進するというのはいいいが、そのための予算的追加措置はなく、研究費が削られるだけである。共用設備といながら高額な利用料を設定し使えなかったり、外部からの利用は後回しにされたりする。外部から利用がなく特定のグループだけで独占しているような場合はペナルティを与える等のルールが必要。データ駆動型研究に必要なデータは質が高く、よく組織化されたものでなければならぬが、国の方針だからとにかく集めればよいという感じで無駄にエネルギーが失われている。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)

62 機関の内部研究費はゼロなため、中長期目標を達成するための大型外部資金取得へと上層部が奔走するも上手く進んでいない中、実質的には個々の研究者の自由な発想での外部資金取得によって研究が進められており、大きな矛盾を抱えていると感じる。機関の内部研究費なしでの中長期目標の設定に無理があることを理解し、現実合わせた中長期目標を設定すべきように管轄省庁から指導が必要と感じる。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)

63 米国のように共通機器によってうまく研究を回すことで効果的な研究機器の利用ができるという意見があるが、共通機器はどうしても使用方法のレベルがラボによって異なるため、機器の不調や故障の誘引などでトラブルが多い印象である。とはいえ各ラボで完全な機器の整備を行うには十分な研究資金が必要で、現時点では研究資金の格差による研究環境の差がラボごとに生じており、非常に難しい問題だと思っている。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)

64 機関の研究予算削減により文献情報等へのアクセスの機会が減少してきているのを危惧する。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)

65 大型実験設備(放射光施設)を利用して感じるのだが、海外(欧米・中国)では、一つのビームライン・装置に何人かの研究者・エンジニアが任期無し研究職員として専属していて、ユーザーのための手厚い支援とともに自分達の研究も行っている。一方日本では、海外に無いような最先端の装置もある一方で、数少ない任期無し研究職員が複数のビームライン・装置の担当を掛け持ちしてせわしなくしている。(そして論文数,トップ論文数ともに、試料・デバイス合成の専門家と装置専門家が強力なタッグを組んで研究ができる海外の方が多い)日本人はどうも一人で何でもできることがトップ研究者の条件であるように見受けられるが、海外では分業体制がかなり進んでおり、トップ論文の共著者数は大抵おびただしい人数になっている。問2の06-08にあるような、共同利用設備にきちんと専門人材を置く、という人件費(しかも任期付きではなく任期無しで)を、研究費から確保できる仕組みが必須だと感じている。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)

66 出張報告手続きにおいて、オンラインで電子ファイル(PDF)を提出かつ原本も送付、といった手続きを要求されることが未だにあるが、必然性が不明。無駄な時間が取られているように思い、ストレスがたまるのでどちらか1つするか、その必然性を示してほしい。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)

67 研究情報へのアクセス、データプラットフォーム、研究情報ネットワーク、AIやバーチャル空間の活用など、オンラインで行う研究活動や情報公開と、セキュリティ強化とは相反するものでもあり、研究での活用を促進するためには両者の「折り合い」をつける努力が必要である。幾重にもプロテクトして「100%の防衛」を目指すのではなく、「数%の事故に迅速かつ効果的に対策する」方法をしっかりと組み上げて、「ユーザーの利便性」を重視した情報利用環境を構築する方向に、舵を切って欲しい。(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)

- 68 データの公開・共有が進んでいるが、データの整備には論文作成と同様にかかりの時間が必要である。データの整備に対する業績評価の仕組みが必要である。(国研等の自然科学研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 69 研究時間の確保が一番の課題と感じる。研究に専念できない状況がある。(国研等の自然科学研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 70 基本的に古い体制のままのものが多く感じています。コロナ禍で組織再編がりましたが、下々としては良い方に動いたと感じにくい環境です。(国研等の自然科学研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 71 自動化やデータ駆動型研究については、組織的に推進していく動きになってきたと感じています。一方で、末端の現場の研究者にまで浸透しているかは不明瞭で、まだ当たり前の段階にはなっていないように思います。(国研等の自然科学研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 72 人件費と基盤研究費の拡充を望む。(国研等の自然科学研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 73 (203) 科研費の少額の費目について、採択の絶対数を上げるべき。特に、科研費・挑戦的萌芽の採択数・採択率が低すぎる。挑戦的な研究は、少額でもいので採択率を上げ、チャンスを増やすことが大事なのではないか、とかなり疑問を感じる。(204) 研究活動に関連するが、本質的でない雑用が多すぎて研究に十分な時間を割けない。アカポスの絶対数を増やして雑用の負担を薄めない、この状況は改善しない。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 74 ○○○○【国研等】では現理事長就任後から基盤研究費の削減が続く、現在0円まで削減された部署もあります。また、内部資金を競争資金化したためにただでさえ予算の獲得が厳しい中、より一層予算の確保が困難になり、余計な資金獲得のための余計な書類作業や決済業務に労力を割かれ、結果肝心の研究業務に充てる時間・人的余力が不足しています。機器や設備の更新もまったく進んでおらず、限られた資源の中で各職員が自助努力で成果を積み上げているのが現状です。経営幹部が行っていることは、実質、研究業務を妨げるような横やりや雑務(無駄な会議・資料作成など)の押し付け、予算や人的マネジメントはせずに口先の介入をするばかりで、本質的なことは何一つやっていないのが現状です。さらに経営幹部から指示を受けた事務系・研究管理系の部署から五月雨式に雑務が降ってくるため、年の大半をそうした雑務の対応に追われ消費しています。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 75 論文アクセス・投稿料が高騰している中、大学や研究機関における閲覧できる論文の範囲が狭まってきている。国としての戦略がないと、今後メジャーな論文しか見れない(新しい発見や新物質合成のタネとなる論文はだいたいマイナージャーナル)状態になり、研究開発のスピードが遅くなると想定される。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 76 本項目の質問そのものの設定がおかしく感じられる。ICT人材の確保やデータの共有などが果たして研究力のアップにつながるのか? 考えていただきたい。研究を行わない人材ばかりが大学であふれて、給与がそこに割かれる状況があり、研究者が逆に疲弊していると感じられる。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 77 施設内研究環境変化より円滑に担当研究を進めるため2023年8月より、○○○大学医学部客員教授と併任で○○○○○○センターの特任研究員にでも研究を進めております。本件は○○○大学について記載しております。○○○○○○センター研究所の研究環境は全て4-5に評価になります。蛇足ですが。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 78 小規模な私立大学の一部においては十分な研究環境の整備について経営陣の理解が得られにくい状況である。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 79 研究環境は最悪である。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 80 部局内での研究室のアクティビティの差が激しい中での平等主義はやめるべきで、アクティビティに応じてサポート部門などを作るべきだと思う。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 81 大型設備を多数有する機関であるという背景はあるかもしれませんが、研究設備の老朽化と設備をオペレーションする技術者の不足は深刻な問題。定型的な操作は外注できるが、これが続く実験的研究の質的低下という本質的な問題が顕在化する可能性がある。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 82 研究資源: 社会実装を推し進めるためには「選択と集中」はある程度必要であると考えますが、採択機関に予算だけではなく、膨大な量の評価書類やマネージメント業務も集中している。「選択と集中」=「書類の山の選択と集中」では社会実装スピードは上がらないと感じる。「選択と集中」は資金配分・評価機関に大幅な事務DX改革も同時に必要な政策であると感じている。研究活動の変容: 公開・共有は「輸出管理に関係しないと宣言できる情報のみ」に広がっているように感じる。先端研究は必ずデュアルユースである。これら分野で欧米と伍して戦うためには、研究当事者が個別研究情報の公開範囲を瞬時に設定できる合理的な運用規定が必要であり、これは内閣府を中心に府省横断的に合意形成すべき案件と考える。現状の外為法においてはグレーゾーンが多く、新たな情報運用規定がなければ、重要情報の公開・共有はこれ以上進まないと感じる。「公開・共有」戦略は「新たな情報運用規定」策定とセットである。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 83 データの公開の方法について、従来の論文投稿以外にもプレプリントなどが増えてきているが、どのくらい認知、あるいは、研究データの公開方法として認められているのかが分からない。分野によっても異なるのかも知れない。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 84 大学の研究基盤となるデータ解析ソフトウェアや電子ジャーナルの利用料が使用者負担に転換されるに従い、これらは基盤研究費からのみ支出が可能のため、基盤研究費の実質的な目減りが起こっている(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 85 部局における共用機器の運用に関わる優秀な技術員(電子顕微鏡の試料作製と撮影の専門家)が、任期付であるために辞められたことが、研究実施において痛手となっています。実質的な任期無しの雇用でない、共通機器の管理、運用に人が来てくれません。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)

- 86 地方国立大学から私立大学への所属変更を経て、少なくとも私が所属する私立大学においては私立の方がはるかに研究しやすい環境が残っていると感じる。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 87 研究成果の公表方法は、私の分野では多様化というよりarXivという一つの世界共通の大きなwebsiteがあるのでそれで十分だと思います。逆にもいろいろ多様なものができたらむしろややこしくて面倒です。日本独自のものとかを作らないでいいので、世界共通のものにしたほうがいいと思います。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 88 教員の能力を必要としない事務仕事には、研究基盤経費で専門の事務人材の雇用を拡充し、研究者の研究時間の捻出について本気で対策すべき。そもそも講義、学生実験、大学入試問題作成、院試問題作成のための教員数すら足りていない。教員の研究時間が年々減少していることは、10年以上認識されているのに全く改善の兆しがない。バイアウト制度が提案されているが、実際に制度利用によって成功している例はあるのか？たとえば旧帝大の教授/准教授が担当する講義や会議を非常勤講師に委任して研究時間を捻出している例があるのかどうか、あるのであれば、どこから非常勤講師の人材を募っているのか、また、それを研究科や専攻の総意として許容しているのか。また、「内閣府における調査『大学の評価疲れ申請疲れに対する方策に関するアンケート』への協力依頼について」というメールが2023年6月末に各大学に回ってきたが、全ての申請(科研費、JST、財団など)は事務が把握しているので、研究者にアンケートを取るのではなく、事務から情報を抽出すべき。e-radでも、財団以外は採否も含めて把握できるはずである。不採択になった研究申請リストを作成するために研究時間を削る気が起こらなかった。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 89 円安の影響が非常に大きいように感じる(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 90 データリポジトリなどの基盤を整備するためのプラクティスが共有されていけばもうすこしデータや成果の公開の多様化につながるかもしれない。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 91 研究活動を円滑にマネジメントするための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)のレベルが低いのが問題(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 92 研究費使用に関して、会計システムが導入された。研究者がWebで使用金額を入力、納品・請求・見積もり書類のPDF化してアップロード、10万円を超える装置類の発注は研究者が行い、相見積もりや装置カタログを入手してアップロードするなど、負担が劇的に増えた。また間接経費をとれない助成金は大学事務が管理せず、個人管理させるなど負担や不安が増えた。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 93 URA人材が入ったことにより外部資金申請が少しスムーズになったが、大学としてのURAが研究者に対するサポート体制は未だに不十分である。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 94 問2-08の共用研究施設・設備の利用のしやすさについてですが、国研にはエンジニア(任期無し技術職員)や任期制職員を共同利用設備に配置する予算がついているが、大学にはついていないことが多く、教員が研究時間を割いて対応していることが多い。その結果、国研ではよくメンテナンスが行き届き、利用者数も外部からも多いが、大学では管理している研究室の近傍のみで利用しているという状況をよく聞く。このような予算の不均一(特に人件費)の是正によって、技官や共用設備にかかる事務業務員を大学に配置する予算を、国研や一部の研究者に偏在している予算から再編することによって、大学の教員の研究時間を格段に増やすことができると考えられる。この内容は、主にARIM事業(旧ナノプラットフォーム事業)を現場で見感じたこととなります。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 95 問2-09について、ICT技術が必ずしも必要な研究分野ばかりではないので、十分、不十分で評価するのは適当ではないように思います。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 96 学術誌に掲載される情報以外の公開情報がどれくらい活用されているのかについては判断できません(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 97 事務レベルでのリモートワークが全く進んでいない。WEB会議への抵抗も未だある。(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
- 98 実験系の研究を支援する仕組みが不足している(重点プログラム研究者,助教、研究員クラス,男性)
- 99 大学事務部の頭の固さと反応の遅さには本当に驚く。勤務状況管理、出張、教務全てバラバラのシステムで、いつまで邪魔をしようと思っているのかと本気で疑うくらいの非効率さをいつまで続けるつもりなのか、呆れる。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 100 わたしの分野ではデータ共有を進めようとする意識が不足していると思いますが、個人研究者の力でこれをおこなおうとすると、研究費以上の経費(人件費など)が生じてしまうという問題があります。この問題を早期に解決しなければ、ICT時代の学術スタイルに対応できず、分野の将来が危うくなると認識しています。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 101 今年度は学内の役職につくことになったため、研究のための時間を確保することが難しい。学内で役職についた研究者向けのその他の業務の配慮制度(授業コマ数の縮減、その他の業務の免除)はあるが、形骸化しているのが現状である。外部の公募型研究資金に関しては、人文・社会科学系の基礎研究への研究費が獲得しにくい状況にあると考える。大型の公募と合わせて、時期や分野を多角化した公募があると良いと考える。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)

- 現在所属している大学では、全体として、研究環境に関連する職員の方々は非常に尽力くださっていると感じますし、複雑な学内手続きの簡素化にも努めて下さろうとしていることは感じております。一方で、特に不正防止や研究の費用対効果を示すためだと思えますが、何かをしようとするたびに記入しないとならない、また提出しないとならない書類が以前より増えており、せっかく大学全体で手続きを簡素化してくれてもかかる時間は変わらないように思えてしまいます(全品検取などという手続きも以前はありませんでした)。自分が研究環境の整備も含め一人で何でもやるのは時間的にも厳しく、自費でも良いので研究関連の事務を代行してくれる方をお願いしようかと考えたのですが、現在、以前より忙しくなっているということで、やりたいのだけれど断らざるを得ない、とどの方にも言われてしまっております。加えて、管理職の中には、ITや語学の面で不安がある方々もおられ、それらの能力を有する若手職員の方に負担が行きすぎているとも感じます。近年では、大学が行う業務の範囲が拡大する一方で、教員にも研究以外でさまざまな業務が依頼されたり学内委員として活動することが求められております。組織の一員として仕方ないとは思いますが、サポートが不十分だと感じることも多々ありますし、学会活動や学会の各種委員や役員等への就任も制限しないとない状況で、研究者としてはこれで良いのかと感じることは多いです。正直、環境的にはさまざま恵まれた勤務先だとは思いますが、近年、体調を崩す教職員が増えているのは心配です。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 102
- 大学教員の仕事内容として、教育や学内運営のウエイトが大きく、研究の時間を十分に確保することが難しいため、研究のウエイトは高くないと思われる。研究環境を整えることも大切であるが、研究のための時間を確保できるような環境づくりを期待する。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 103
- 所属機関では文系の主要な電子ジャーナルがどんどん削られており、研究環境として壊滅的な状況である。海外の共同研究者に頼んでダウンロードしてもらっている状況。文献へのアクセスは研究の根幹であり、国として動いてほしい。(人文・社会科学系研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 104
- 海外へ研究成果を発表するにあたっては、語学や論文形式の違いなどのハードルが高い。専門のスタッフによる支援が大切であると考える。(人文・社会科学系研究者、助教、研究員クラス、女性)
- 105
- 機器共用の推進は全学を挙げて戦略的に推進しているが、機器の故障修理に多額の費用と年度を跨ぐ時間が掛かることがある。機器共用推進による外部収入や自己資金だけでは対応しきれない点もあり、苦慮する時もある。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 106
- 上記の調査項目のうち研究資源については、分野による違いが大きいため、所属する大学や研究機関全体における状況だけを見てみると、見過ごしてしまうことが多いのではないかと。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 107
- 205に関しては、文部科学省「研究大学強化促進事業」終了後、当該事業で雇用されていたURAのテニュー化、研究マネジメント経験豊富な新規URAの採用など、URAの育成・確保は順調に行われている。206～208に関しては、現在文部科学省「コアファシリティ構築支援プログラム」の実施により、大学全体として研究設備・機器の共用化を進めている。具体的には、一元的な管理、測定データの管理・二次利用、技術職員のサポート等のスキル向上、新たな研究テーマ探索機会の提供などに取り組んでいる。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 108
- 研究施設・設備等については、環境が整いつつある。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 109
- 研究施設の改修や設備の更新に必要な財源の手当てが難しいため、一時的な応急措置で対応しているケースが山積している。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 110
- 大学の研究、教育、経営、IRなどの企画、戦略、マネジメントなどに関わるURAが絶対的に不足している。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 111
- 各研究者の自由な研究時間の確保は大きな課題と認識している。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 112
- いろいろな点で、日本の教員は研究に使える時間が少なくなっていることに加え、能力がある人ほど大学運営を担ってもらわねばならない状況もあり、研究、教育、運営における悪平等(たとえ優秀でも研究に専念しにくい)という日本のよくない面もあると思われる。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 113
- 研究データに関して、米国のNCBIのようにデータを包括的に集積し、どこからでも検索できるようなシステムを作らないと広く使われることはない。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 114
- 研究設備や建物の老朽化に対する対策が必要である。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 115
- 数社による学術雑誌寡占が与える深刻なダメージは、全世界の研究コミュニティに広がっている。もはや個々の大学や小さなコンソーシアムで解決できる問題の範疇を越えて久しく、国としての巧みな対処が必須の状況にある。有能な政治家に期待。運営費交付金の削減が大学のパフォーマンスを著しく下げている。競争的に研究職に就いた研究者が、運営費交付金などから一定額(一人あたり年間100万円程度)の研究費を安定的に受けて研究・教育に専念できる環境を早急に整えるべきである。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 116
- 今後医師の働き方改革の厳格な推進に伴い、特に医学研究においてはその質、量ともに低下していくことが想定されます。ご理解をいただき、研究環境の整備にさらなるご支援をいただければ幸いです(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 117
- 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業等、国による研究大学基盤整備支援(総合振興パッケージ)は公立・私立大学にとっても極めて重要であり、国際卓越研究大学の支援とともに我が国の研究大学支援の根幹をなす事業群と考えます。2,000億円基金の規模を拡大することを願っています。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 118
- 若手の研究環境は、日本全体として改善しているが、それだけでは不十分である。若手が自らの領域を開拓する意欲をもって、国内外に留学すること、大学は多様なキャリアを積んだ人材を採用する流動的の人事を行うことが必要であるが、これが日本は決定的に欠けている。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 119

- 120 いわゆる先導的な役割の研究大学との格差がどんどん拡大してきているように感じる。また、「研究環境」の論議が、いわゆる理工医農系の研究に偏っており、研究スタイルのかなり異なる人文社会系をベースとする研究環境についての議論が不十分なのではないか？(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 121 私立大学の基盤的経費は国立大のそれ以下であり、学納金に依存するところ以上に私学助成等での機器整備を含む支援の拡大が必要と感じられる(現在の研究設備整備費関連補助金では半額程度補助であり、年度前予算化等が必要となる)。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 122 研究スペース不足は重大な懸念事項です。若手研究者を増やそうとする中、不自由なく実験ができるスペースを積極的に整備することが望まれます。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 123 間接経費が研究とは関係の無い部分に使われていることもありますので、国による間接経費の使途状況チェックが必要ではないかと思われまます。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 124 論文誌のオープンアクセス化に関する出版社との交渉に象徴されるように、国家レベルでまとまった対応を進めるべきである。機関の個別対応に委ねられていることが多い。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 125 URA等研究専門支援人材の確保、活用を進める必要がある。研究専門支援人材に期待する機能・レベルは各機関で異なるので、ベースの部分は全国共通の育成方法(リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構の研修等)を活用しつつ、各機関独自の育成が必要。自機関ではURA等研究専門支援人材の確保や育成に相当力を入れているが、更なる高度化をする必要がある。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 126 研究支援人材として、URAの必要性はよく語られるが、技術職員の充実も喫緊の課題だと考えている。研究施設・設備の共用化を進める上で支援者(技術職員)の不足がボトルネックになっている。また、研究設備の管理や利用者支援などを助教などの若手研究者が担うケースもあり、若手研究者の研究時間を奪うことにもなりかねない。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
- 127 各大学のDXではなく、公的機関における申請～研究成果報告までのDXを進める方が効率的。各機関が要求する様式等が統一されていないことで各大学が非効率な作業をしている。研究成果の報告書は大部ではなくコンパクトにしたいうえで簡単に検索・共有できるようにすべきではないか。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
- 128 学内には、大学は、教育のみを行えばよろしい、とする勢力も存在する。(大学マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 129 研究基盤を持続的に支持するための事業費の枠組みが不足している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 130 府省庁連携で、各組織のデータを活用できるように SIP4D(基盤的防災情報流通ネットワーク)を開発し、防災基本計画にも取り上げられた。研究データでないものも防災には重要な情報もあり、データ・研究成果を公開・共有するための取組は進みつつある。大学や企業との連携を含めていく必要がある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 131 大学共同利用機関等における機器・設備の更新が進んでいないため、今後の最先端実験機器・先端技術等の利用・共用に懸念がある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 132 コンプライアンス強化などもあり、個々の研究者が対応しなければならないことが増えており、研究に割くことができる時間がますます減少している点が危惧される。研究データの公開・共有の促進には、データ提供の動機づけ、活用に適したデータの整備など多くの課題があり、政策から技術まで多面的な対応が必要。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 133 任期無し研究者の絶対数が30年前の4割にまで低下している。また任期無し研究者の相対的な高齢化が進んでいる。その結果、研究管理業務の任期無し研究者に過度に集中してしまっており、実際上ブラックと言うに近い勤務状況が発生しつつある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 134 5～8年の研究プロジェクトが中心なので、〇〇大に入って博士後期課程の学生を受け入れると、研究・教育業務の両立が難しくなる。サポートが欲しい。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 135 大学共同利用機関のデータは個々の機関で持つより、〇〇〇【大学共同利用機関法人】などが一括で持つ方がよいかもしいない。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
- 136 大学・研究機関のインフラ整備は相変わらず厳しい状況にある。それぞれの大学での整備は難しい状況であるため、共同利用で実績のある大学共同利用機関に先端設備を導入して共有化させ、研究の水準を引き上げることが必要である。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 137 感染症拡大に伴って導入した「オンライン開催」や「リモート開催」は、対面で開催できるようになっても、併用しているため、より研究会やシンポジウムなどのイベントに参加しやすくなったと考えています。また、原議書などの事務書類の電子化も進んだことで、業務が効率化されてきたと思います。(国研等マネジメント層,その他,男性)
- 138 コロナによるリモート対応の影響か、DX推進の影響か、以前よりもデジタル技術を利用した情報共有化が進んでいる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 139 大学の研究室が、個人商店で、大学がその集合体となっている印象が依然として強いです。AMEDへの研究資金申請でも、多くの大学で事務部門の指導や支援が足りないと感じます。海外の大学では、研究活動や共同活動に対する支援で、もっと支援部隊が契約等でフロントに出てきて推進できると感じています。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)

- 140 大学が多すぎて定員を埋めるために(特に大学院では),中国人をはじめとする外国人留学生に頼るしかない。一方,中国をはじめとして本当に優秀な学生はアメリカに行ってしまうので,海外の3,4番手集団に日本の資金で教育と情報を与えているような状況が生じている。産官が危惧する経済安全保障の観点で好ましくなく,大学教員の意識がついてきていない事もあって重要な技術開発で日本の大学と連携が難しくなりつつある。何処が出すにしろ,研究費の拡散も発生し,本当に良い研究をしている研究室に資金が届かない状況も見受けられる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 141 研究機関とのリモート対応は進んでいるが,技術的ディスカッションなど対面の方が効果的な内容との棲み分けが不充分と思われる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 142 世界的にはAIを含めた新しい技術の活用が広がっており,技術革新も年々加速度的に進歩しているが日本では技術の開発や活用面で若干の遅れがあると感じます。AI技術についてはまだ未知数な面もありますが,国を挙げての取り組みを強化すべき点もあるかと思っています。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 143 様々な分野で日本の技術力は低下していると感じます。豊かな国ではあるが,国力の面では他国に追い抜かれています。大学あるいは公的機関の研究基盤も国力であると思いますので,もっと整えることはあってよいと思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 144 半導体関係だと遅れを取り戻す為の施策が始まっているがリーダー不在,ばらまきの資金投入に感じる。世界全体で実施すべき研究をうまく役割分担し,競争,共創する仕組み作りが急務に感じる。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)
- 145 ・国プロで得られたデータの公開については,企業としても持ち出し費用があるためすべての公開は難しいと考えるが,公開が可能と企業が答えたものについては国主導でデータを公開する仕組みがあっても良いかとも思う。デジタル活用は徐々に進んでいるものの,全体としてはまだまだと感じる。リモート化は進んだものの,元に戻っている部分もあり,効率化という意味では進んでいない。情報公開はされているが,探しにくいという点に問題あり。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)
- 146 大学や公的研究機関の活用の仕方やICT技術に基づく研究方法の変革について,アドバイスしてくれるようなところが欲しい。(大企業の代表等,その他,男性)
- 147 地方都市にある当社では,公的機関との接点が多くないこともあり,多くの公的機関の状況や内容をほとんど把握できていない。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 148 国家戦略に基づいた戦略的開発テーマを決定し,資源配分をもっとドラスティックに行うべきと考える。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 149 ともかくも研究費の不足,使用用途の制限,また特定分野への集中(広範にあまねく配分されるのではなく,いわゆる「選択と集中」により,研究費が潤沢な分野と大きく不足している分野に分かれることは大きな問題であり,もはや日本の科学技術研究は回復不可能なレベルにまで落ち込んだのではないかと思われる。ここからの回復は数十年を要し,国家的課題として考えるべきであろう。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 150 日本政府における高等教育の明確な位置づけの打ち出しが必要。日本からノーベル賞をたくさん出すとの話が以前あったが,そのために必要な研究者への基礎支援(予算,人的サポートなど)が少なすぎる。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 151 論文にならない事はかわり合いたくない,企業の人のことまで教育したくない,という先生がことさら多くなってきた気がします。助教,准教授レベルですら,自分の保身やポジションの維持が最優先で,社会貢献という感覚はゼロ。特許は国の財産だから,と説得しても,さっさと論文や学会発表して台無しにしている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 152 研究者の環境に給与を入れると,全く足りない。多くの競争的資金には人の雇用についての支援はない。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 153 コロナ禍でオンライン化が進んだことは良かったと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 154 国公立系の大学は予算が単年度主義であるため,研究の継続性と言う部分で予算の有無など外部制約要因がやや強い。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 155 研究環境については直接,現場に携っていませんので,聞いた内容でお答えさせていただいています。研究成果の情報流出について対策ができていないのは非常に心配なところです。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 156 日本国内では研究データや共同研究など大学の間口は開かれているという印象を持っています。しかし,多くの方にとっては,開かれているがアクセス方法が分かりづらく,研究結果が広く一般的に活用される機会が減少しているように思えます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
- 157 弊社は,親会社である〇〇〇〇〇から業務委託を受け,自動車の開発を行っている為,本パートに関わる部分につきましては,親会社である〇〇〇〇〇が実施しています。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,教授,部局長等クラス,男性)
- 158 前回,回答時(2021年)と比較するとより一層状況としては悪化しているように感じる。改善のために国に動いてもらいたい。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,准教授,主任研究員クラス,男性)

- 159 オープンサイエンスの実現のためには、研究者個人への負担をできるだけ軽減し、機関が責任を持って環境を整備することが重要であるが、経営層の理解が不十分なこと、経営上の財源確保が難しいことなどから、興味を持っている研究者集団の自助努力によってのみ進められている傾向が強い。経営層への理解を深めるための施策とそれに呼応した財源の支援が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 160 研究成果の公表や、論文リポジトリなどは充実したが、一方でこれらの利活用がそれに追従しているかについてはまだ充分でないように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 161 科研費のような研究助成はかなり行きわたるようになり、特に若手研究者のモチベーションの向上につながっている。私立大学においても、科研費あるいはその他の外部資金の恩恵に与る機会が増えてきたことは喜ばしい。研究成果の活用については、大学や研究機関だけでなく、より広く、企業や民間機関を巻き込んだ交流の場が必要だと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 162 各研究機関に対して、民間資金の獲得増を政府が強く望むために、産学連携の応用研究に多くの研究者が時間を費やしている。公的資金の多くも同様の応用研究重視であるゆえに、刈り取るべき基礎的学術研究の成果が枯渇気味である。基礎的学術研究に注力できる各研究機関の基盤的経費の充実がままならない中で、科研費を含む競争的資金の中に独創的な学術研究の充実を図る取り組みをさらに重視することが必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 163 研究成果が、一般の社会人にわかるような工夫が必要で、このままでは成果が社会に還元されることは難しい。特に優れた研究成果はURAなどが発信に助言してはどうかと思う。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 164 ・特に地方大学についても、十分な研究資金が備わるように検討をしていくことが必要であると思う。これにより更に地域密着型の産学連携が促進されるものとする。・公的研究資金を投じて得られた成果物を、広く公表していただき、これらの成果物の利活用を促進できる施策を更に検討することがよいのではないかと考える。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 165 円安等の影響もあり、むしろ研究資金の状況は悪くなっている。OA出版のためのAPCなども。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 166 日本国内の研究費は、他国と比較しても少ない状況にある。公的資金よりも民間企業の人材や知識への投資が少ないことが大きな要因である。企業の内部留保金はかなりの額となっており、今後人材への投資が必須である。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 167 基盤経費がどんどん削減され、研究するには外部資金を確保しないと行けない。大学院生が研究するための資金を確保することが難しい。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 168 若手の研究者は、従来より公開・共有された研究データ・研究成果の検索方法を理解しており、ある程度活用もなされているものと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 169 世界的なインフレと円安により、民間のデータベースの価格が上昇しており、入手の難易度が増している。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 170 利活用のためのデータベースを担う当事者としてはデータの共有や利活用が全くもって不十分。ナショナルと呼べるリポジトリや利活用基盤を恒久的に支える仕組みを早急に作るべき。またデータ産出は大きなデータセンターに任せ、個々の研究者がちまちま外注してデータを散逸させる現状を改善せねばならない。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 171 研究の基盤的経費の不足は極めて深刻である。円安の影響もあり、図書費を始め次世代に残すべき研究基盤が残せなくなっている。なお、2-04について、「公開・共有された研究データ」の利活用が可能であるのは当然で、設問が意味をなしていない。基盤となるデータベースへのアクセスが十分にできない(公開対象にならない)場面は多く(医療情報・ゲノム情報など)、その面で問題がある。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 172 選択と集中が強いきすぎているように感じています。広く薄く研究費を配分する効果を、再度、確認しても良いと思っています。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 173 特定の機関を選定して、そこを通してデータを集約する仕組みには限界があるので、〇〇〇【大学共同利用機関法人】のSINET6などを利用して誰もが研究データを委託できる仕組み変更することが急務の課題であるように思います。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 174 国による研究への投資が今までになく進められており、その活用により大学での研究環境は改善の方向にある。一方で、改革を伴う戦略性が求められるため、特に大学経営層の手腕の差異による、大学間格差も顕著となりつつある。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 175 公的なデータベースの整備が不十分である。限定された学術領域の小規模なデータベースは多いが、それらを俯瞰できる公的なデータベースの整備が必要である(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 176 我が国全般においては、大学格差が広がっている印象を持ちます。一方、それぞれの大学で特色を出す努力も進みつつあるとの印象を持ちます。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 177 人件費も含めて、研究経費は不足している。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 178 地域中核大学などの取り組みは今後の効果が期待される。一方、単純なバラマキでなく、より広く研究者の裾野を広げるようなより基盤的な経費の整備もさらに進むことは必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)

- 179 研究成果の活用は研究者間での共有や引用だけでは不十分で、自然や社会における課題の解決のために用いられて初めて有用性の実証につながり社会的に認められると思う。そこに至るには、課題の把握と解決のためのアプローチを見極めたくて、基礎研究から始めることはある。研究者がその自覚と責任をもって研究できる研究環境を整備することが重要である。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 180 研究予算そのものは例年と大きく変わらないが、光熱費や物品費の値上りのため、実質的に予算が下がっている。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 181 外部資金を取れる研究室のみ研究経費が確保できており、多くの研究室はそのような状況にはないという意味で、基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分に確保できているとはいえない。公的研究資金を用いた研究データ・研究成果は、報告書という形式で公開されているケースが多いが、多くの場合それが有効に活用できていない。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 182 研究費配分の偏りが大きすぎると感じます。研究業績を数値化することは難しいですが、配分研究費と研究業績は比例していないと思います。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 183 科研費等の若手が年間数百万程度のカテゴリーはもっと比率を増やすべき。特に実験系であればほぼ採用すべき。そうでないと若い重要な時期を無駄にする可能性があり大きな損失だ。海外からきた日本語が不自由な研究者が科研費などに応募するときに不利になっている(英語でも出せるが採用率が低くなるというわさがある)。そのようなことがないか調べていただきたい。審査員のほとんどは日本語話者だとして、何百と審査するなかで日本語の方が短い時間で理解ができるため採用されやすくなるということは十分考えられる。英語話者の審査員を英語申請書には増やすなどの措置をすることも考えられる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 184 研究データの公開や共有については、どこでどのように議論され、どのように実践されているのか、見えづらいところが問題ではないだろうか。運営交付金とはもかく、競争的資金については多少公募範囲が広がっているように見えるが、その情報共有の仕組みが必要だと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 185 データポリシーの策定、公開促進などについての広報は十分に行き渡っていると思われ、逆に、倫理委員会などで不要な審査を求められることもあるように思われる。一方で、公開・共有された研究データ・研究成果の利活用については、いまだ、十分とは言えず、研究分野によっては公開されている場所に辿りつくのも難しいと思われることもある。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 186 データ管理と共有のための施策を進めたいという意識は高まってきているように思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 187 選択と集中にともない生じる研究機関の序列化は、一時的に「負け」た者がやり直す機会を奪っていることが多いように見受けられる。次のチャンスを創るための取り組みも、並行して考えてほしい。(負け理由の分析と、必要な手当を妥当な範囲で行うことが必要であろう。)でなければ日本の研究の底力は弱る一方で、ますます先細ることになると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 188 近年、Top10%論文といった論文の被引用状況で研究力を測るようになってきている。そうであれば、投稿論文を誰もが等しくゴールド・オープンアクセスにできる経費をどの大学・公的研究機関にも確保すべきであるし、その前に、必要な既往研究にアクセスできる環境も、基本的な研究環境として整える必要がある。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 189 公的研究資金を獲得するための研究以外での労力が非常に多い印象を受ける。(俯瞰的な視点を持つ者、助教、研究員クラス、男性)
- 190 研究データの利活用については、データベースの構築・公開等により共有の推進が期待される。(俯瞰的な視点を持つ者、助教、研究員クラス、女性)
- 191 研究成果が利活用された際、その点について、公開先にその情報を伝えるシステムの構築が必要(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 192 ○○○○○○のクラウドファンディングが象徴的のように、資金面での改善は進捗していない。研究データ・成果の利活用は以前より目にするものの、より社会に分かりやすく伝えたいほうが良い。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 193 公開・共有された研究データ・研究成果の実態があるのか？(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 194 オープンサイエンスへ向けたより広範な政策が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、女性)